爲せる所少なからず。而して其面積八百七十一餘方里にして之に包容する市郡町村數市二、郡八町十、村百十八個なり。大正三年四月現在戸數十一萬三千九百十戸、人口七十六萬二千百六十一人にして男女相央ばせり。總人口を更に各市郡に內譯すれば青森市四萬七千七十五人、弘前市三萬八千四百四十八人、東津輕郡二十三村八萬二千三百六十九人、西津輕郡二町十八村七萬五千百二十五人、中津輕郡十六村六萬三千七百五十五人、南津輕郡一町二十八村十一萬八百八十二人、北津輕郡一町二十二村七萬九千三百七十一人、上北郡三町十三村八萬六千七百四十八人、下北郡一町八村四萬二千三百八十九人、三戸郡二町三十村十三萬六千九十九人にして一方里の平均人口八百七十人弱なり。人口增加割合は明治四十四年現在の七十四萬二千八百八十二人に比すれば一個年平均一萬人弱の增加なり。

第一節　地方思想の前途

更に進んで青森縣地方の思想、人情風俗を論せんとす。青森縣地方は、舊藩の關係及び其地形の關係に於て、其の思想、人情、風俗を二大別せざるを得ず。即ち嚴密なる地形の關係より、之れが分派の標準を立つれば、八甲田山を一の分岐點として青森縣地方人の有する思想、人情、風俗を全

然異なる東西に區劃して論ずることを得べし。此地形上より來る區劃なるものは即ち津輕、南部の舊藩區分にして西部、東西南北津輕及中津輕の五郡は舊津輕藩として統一されたる思想、人情風俗を有す。東部、三戸、上北、下北三郡は舊南部藩として亦別に統一されたる思想、人情、風俗を保つ。之を更に其の應接に遑なき四季氣象の關係より觀察すれば、青森灣を挾で西部五郡は常に日本海特有の寒流を受け且西比利亞大陸の朔風に洒さる、之に反し東部三郡は常に洋々たる太平洋の暖流に接觸す。假りに青森縣の如きは舊藩と云ふが如き人爲的區劃なきに於ても、尙且此二大自然力の壓迫は同地方人の思想、人情、風俗に對し絕大の感化を與へざれば止まざる可し更に之を土地相接したる秋田、岩手二縣との關係に於て論究すれば、西部津輕五郡は同一日本海の寒流、西比利亞の朔風を受くる同一地方として、將た亦交通機關の直接したる關係より、其思想、人情、風俗秋田縣地方人に酷似せざる可からざる關係なり。然れども津輕五郡は位置を秋田縣の北部に有する丈け、其氣風行動一層不快活に傾き、人心常に萎微振はざること甚だし同地方は所謂津輕の沃野を控ひ天幸に富む事尠少ならざるに拘らず、產業微々として振興せざるは之が爲めなり。更に東部三郡は舊主を同一にしたる關係上、將た亦綏和されたる同一海洋の潮風に直接する關係上其思想、人情、風俗大體岩手縣盛岡地方に酷似し、之れを日本海に面したる津輕地

方と比較すれば其氣風概して陽氣なり。然し其位置と氣候の關係上盛岡地方の氣風より多少陰鬱なる所あり。依是觀是青森縣の西部五郡と東部三郡とは今後如何に交通機關を完備し地方人相互の交通を便にすると雖も、唯に夫れのみを以ては到底思想、人情、風俗の統一を期し得べきものに非ず、而して此不統一が政治の關係に於て、產業及敎育の關係に於て永久に青森縣地方の禍根を爲すものと思惟せらる。最近屢々起る同縣の政治動搖の如きも全く此地方思想の不統一なることに原因するものと云ふを得べし。

更に地方人の有する思想、人情、風俗の善惡長短得失に就て東西兩部の差異如何を論究すれば、東部三郡は旣に其狀況盛岡地方人に酷似すると、西部五郡は其成績善良と云ふ能はざる秋田縣地方人に接近するものありと云ふ一點に於て其大勢の存する所を豫知することを得べく、例へば東部地方人の有する氣風盛岡地方人より不快活なりと雖も、之を西部地方人の有する氣風狀態と比較すれば、尙且快活にして努力心に富む所あり。唯東部地方人の最大弱點とする所は、未だ各方面の事柄に對し頗る實驗と苦心とに乏しく、夫れが爲め一般地方人と懸隔したる最下級の生活に甘じて敢て心身の向上を思はず、胸中一定の理想なきが如くして、常に取る所の行爲に高尙なる分子少なく、敎育の低きと相對して、動もすれば社會進步の弊たる生存競爭の激烈なるに左右せ

られて其氣風も漸次惡化されんとするの傾向あり。東部地方人の思想、人情、風俗としては之れ以上積極的に非難す可き餘地と弱點とを有せざるなり。翻て西部五郡の狀態を見るに天產物、地產物豐富なることに於ては遙に東部三郡の貧弱を凌駕す、地方の特產としては林檎、蔓細工あり、豐富なる林產物、米穀、鑛產物、水產物等生活と直接關係ある之等物資の充分なる關係のみよりしても、地方人の思想、人情、風俗は優良ならざる可らざるに、事實は稍々之に反し其思想、人情風俗未だ善良なるを得ずとの評ある秋田縣地方人に似ざるものなく、從つて其特性としては大體秋田縣地方人と同一に論じて誤りなき所なるも、唯秋田縣地方人と異なる一點は、秋田縣地方に比し天產物稀薄なると其位置秋田縣の北部に位する丈け、秋田縣地方人より其氣風不快活なる點に在り。西部地方人の有する大體思想の狀態は努力心薄く、相當生活の資備はらざるに、普通勞働さへ之を厭ふの弊風あり。之を極言すれば時と場合に依り、喰ふに食なきに際しても尙且つ一擧手一投足の勞さへ之を欲せざるの癖あり。努力心減退して勞役を嫌忌するの關係は亦精神を勞するの關係に於ても現はる。秋田縣地方人の特性は、形式的に勞役するを厭ふ所あるも、座して自己を利せんとする爲めには精神的勞役を吝まず、故に秋田縣地方人は地方に有利なる新事業の企圖せらるゝあらば、如何にかして必ず其一株を獲得することに努ひ、之れ其資質快活なるを證

するものなり。然るに隣地の津輕五郡地方人は稍々元氣尠なくして、其一株さへ獲得することを爲さず、如斯くして地方特有の利益を不知不識の間に皆他地方人に蹂躙せらるゝの狀況にして、之れ青森縣津輕地方人の秋田縣地方人と氣風を異にする一點なり。例へば、林檎は津輕地方の名産にして年額約百萬圓以上を産出し、地方農民の副業として得易すからざる産業なり。然るに地方人は苦心の結果に成る此林檎を販賣するに方り、一日も早く賣上金を得たき目前の利慾に眩惑すると、之を有利に販賣するの精神的苦心とを厭ふが爲め、東京市場にて一個三四錢に賣得べき林檎を立木の儘一個一錢五厘當り位に捨賣するを常とす。更に青森縣地方一般に通じたる弊風として顯著なる事實を擧ぐれば、大正三年中に同縣沖に於て捕獲されたる鯨四十餘頭に上るに拘らず、青森縣地方人の捕獲したるもの一頭もなしといふが如き、現今の青森地方は青森灣に築港設備なきが爲め其交通、商業上の繁華を對岸の函館に奪取さるゝの憂あるを以て、現小濱青森縣知事、築港設備の實行を縣有力者に內協議したるに、縣有力者は青森灣の築港は政府に於て確實に、其補助を明言したる後に於て實行計劃を協議するも遲からずと頗る冷膽に看過する如き、寧ろ地方の利益を思ふの念なきに驚かざるを得ず。既に地方の有識者と目さるゝものにして如斯し、況や其他一般下級民の爲す所は推して知る可きのみ、青森、弘前二市は其名全國に冠たる地

方の一都會なり、然るに無元氣なる地方の弊風として晝間さしもの繁華なる市中も、季節の區別なく夜は八時を過ぐれば商家皆店頭を閉し殆ど用を辨ずる能はざる狀態なり、更に一歩市外に至らば一家八人以上の家族にして貧弱なる豆ランプを以て燈火と爲し、家族一同空しく手を拱して毎夜七、八時頃就寢するもの珍しからず。地方人の引起たざる氣風を表明す可き好適の材料は、大正三年秋縣の某官吏公務を以て近村に出張したる際、高等二年の小學校生徒にして未だ生れて一回も入浴したるを知らざるものあるを實見したりと、從て青森縣地方人を雇傭するにはトラホームと、虱集りと、入浴せしむるの困難とは之を覺悟せざる可からずと。然るに此無元氣怠惰なる性格氣風と相對して玆に一の不可思議なる現象あり、之れ素より青森縣地方人の特性とのみ云ふ可からざるも、稍々極端なる怠惰性を有する青森縣地方人に取りては最も不可思議の現象と云はざるを得ず。而して其不可思議なる現象とは卽ち最强烈なる政治爭鬪癖なり。東北地方人は一般に政治爭鬪癖あるも蓋し青森縣地方人に勝るものなかる可し、中央政治關係に於て然り、況や地方議會に於ては問題毎に頻々として爭鬪癖の實例を見ざるなし。抑も青森縣地方人の性格怠惰無氣力なるに拘はらず、獨り政治上に於てのみ其行動如斯く一般性格と相反するものは如何なる理由に基くか、之れ青森縣地方として否寧ろ東北地方として今日大に研究の餘地ある問題なり

と云はざる可からず。吾人の觀察を以て之を論斷すれば青森縣地方人の思想中には數理的に堅實なる理性の觀念缺乏し、思想は專ら空漠たる哲學的、文學的或は政治的方面にのみ走るに至り弊風の久しき遂に地方人の頭腦を粗雜にし、今日容易に恢復し得られざる禍根を遺すに至りたるものなる可しと思考せずんば非らず。

第二節　主要産物

青森縣最近に於ける一個年の生産總額三千二百三十四萬餘圓の巨額に上る、之を内譯すれば農産物二千九十七萬餘圓、水産物二百七十三萬餘圓、工産物五百四十八萬餘圓、林産物百九十七萬餘圓、畜産物百五萬餘圓、鑛産物十三萬八千餘圓を主たるものとし、而して之等産物中年産額百萬圓以上のものを算すれば米、大豆、魚類、木材、林檎の五種なり。

第八章　青森縣の各種産業

第一節　農業

青森縣の全面積を反別に換算すれば百三十九万八千四百二町歩、内官有地百五万二千四十三町二反歩、御料地四万一千六百三十二町四反歩、民有地三十万四千七百二十六町四反歩、民有地の内水田六万一千三百四十六町三反歩、畑五万二千六百六十二町四反歩、農業戸數七万九百九戸、而して之が一個年の産出額二千九十七万餘圓に上り、内穀菽類は千七百八十二万四千五百餘圓、特用作物類は二十万二千八百餘圓、果樹類百十一万九千六百餘圓、蔬菜類は二百三十万六千餘圓、縣産業上最も重要なる地位にあり。而して之が消長は地方經濟に甚大の影響を及すものなり。農作物中穀菽類米、麥、蕎麥、稗、大豆、小豆、黍、粟の普通作物は多少の差あるも各郡到る所より産出せざるなく、特用作物としては豌豆、燕麥、玉蜀黍、菜種、荏種、大麻、葉藍、苧麻、果樹類は苹果、梨、柿、榲桲、蔔萄、栗、桃、櫻桃、須具利、梅、蔬菜類は蘿蔔、胡蘿蔔、午蒡、茄子、葱、胡瓜、馬鈴薯、青芋、南瓜、西瓜、清菜、甘藍、蕪菁、玉葱等なり。

米の平年産額は約八十三萬石なるか、豊作の結果大正三年は二十五萬五千百六十四石を增收した

り。而して平年産額を各郡に内譯すれば南津輕郡二十二萬五千餘石、北津輕郡十五萬餘石西津輕郡十四萬五千餘石、中津輕郡十一萬八千餘石、東津輕郡九萬千餘石、三戸郡七萬千餘石、上北郡六萬千餘石、下北郡三千二百餘石、外に青森市三千三百餘石、弘前市三百餘石なり。麥の平年産額は四萬八千三百四十五石之が主産地は三戸郡にして三萬八千餘石、上北郡八千九百七十一石、他は何れも千石以下なり。大豆平年産額八萬五千七百四十八石、果樹年産額百十一萬九千六百餘圓の内林檎産額九十一萬五千餘圓なり。尙今後開墾豫定反別水田約六千町歩、畑一萬六千町歩あり。

青森縣の蠶業は甚だ幼稚にして大正三年の收繭額四千五石に過ぎず。

第二節　林　業

青森縣森林原野總面積大正三年四月現在百二十萬七千七百二十五町歩、内森林百十二萬八千七百二十三町歩、内國有森林九十三萬八千六十二町歩、御料森林九千九百三十七町歩、私有森林（公有社寺有を含む）十八萬七百二十四町歩、内國有原野一萬三千四百五十五町歩、御料原野三萬三千六百九十四町歩、私有原野（公有社寺有を含む）三萬千八百五十三町歩なり。之より産出する年

産額百九十七萬餘圓、而して其重なるものは丸太及角材四十二萬八千尺〆、此價六十八萬餘圓、挽材二十六萬餘坪、此價額十六萬餘圓、木炭三百三十五萬餘貫、此價十九萬餘圓、其他鐵道枕材下駄材、杉皮、苗木等なり。

第三節　水　産　業

青森縣の海岸延長百七十餘里、其間幾多漁港ありて最も漁業に適し、最近一個年の漁獲物其他水産總額二百七十三萬餘圓に達する盛況を呈せり。而して漁業に從事する戸數一萬千七百十三戸、其人員三萬八千〇七十一人なり。亦鹹水産漁獲物の重なるものは鰊十九萬五千餘圓、眞鰒十六萬八千餘圓、背黑鰮十萬二千餘圓、鰹二萬八千圓餘、鮪二十萬餘圓、鱈八萬餘圓、鯛二萬餘圓、鰈四萬餘圓、鮭二萬五千餘圓、鰤一萬千餘圓、火魚二萬七千餘圓、鮑十三萬四千餘圓、海扇二萬四千餘圓、一番柔魚二萬七千餘圓、二柔魚十九萬二千餘圓、其他の海産物昆布二萬餘圓、石花菜二萬千餘圓、海蘿二萬四千餘圓、惠胡六萬八千餘圓にして鹹水産漁獲物總額百六十六萬四千餘圓、淡水産漁獲物總額二萬四千餘圓、鹹水産製造物としては節類産額十五萬九千餘圓、素乾産額二十一萬二千餘圓、煑乾二十六萬千餘圓、燒製二萬七千餘圓、鹽製一萬七千餘圓、其他雜類、搾粕漁油二

十一萬八千餘圓にして其總額八十九万五千餘圓なり。漁業設備としては五間以上の漁船六百三十九、五間未滿の漁船四千六十、三間未滿の漁船四千三百六十九、總數九千〇六十八艘なり。

第四節　工業

青森縣地方に於ける各種工業は之を他地方と比較すれば未だ幼稚の域を脫せざれども、凡てに於て貧弱なる地方として、其生產額五百四十餘万圓を算すに至りたるは、近來稍發達の機運に向ひつゝある證憑なり。而して青森縣は其位置或は國內產出の物質より之を觀察するも、將來工業地方として多大の希望を有するものなり。蓋し工業地方として發達せんとするには第一地の利を有せざる可からず、第二工業原料豐富ならざる可らず、青森縣は對岸に北海道、樺太を控へ亦た遠く浦鹽、沿海洲のあるあり、何れの地に航するも海運の便に於ては實に理想的なり、此點に於て青森縣は工業地方としての第一條件を充す得るものなり。更に百十二万町歩餘の優良なる森林を有して杉、松、羅漢柏、落葉松、白楊樹、欅、山毛欅、桐等を多額に產出し、亦二十四個所の鑛山ありて夫より金銀、銅、鉛、亞鉛、硫黃等を產出し、加ふるに、米、麥、大豆、漁類等を產出するを以て工業地方としての第二の條件をも充し得るものなり。亦工業地方に缺く可らざる電

氣事業の如きは、彼の十和田湖の水力を以てせば優に一万五千馬力以上の動力を發生するは易々たるの業なり。以上の條件を具備し地方人其事に努力せば必ず相當の發達を見る可し、現今に於ける縣下の各種工業戶數は專業五千三百五十八戶、兼業二千五百五十一戶、其人口專業一万三千四百三十三人、兼業七千百六十二人なり。而して工業の重なるものは織物三十一万四千圓餘、疊表一万六千圓餘、油類油粕二十四万六千圓餘、漆液二万三千圓餘、漆器三万九千圓餘、藁細工品七十三萬圓、蔓細工七万二千圓餘、味噌三十一万六千圓餘、醬油三十五万九千圓餘、酒類三百三十八万餘圓なり。今更に二三特產品に就て其生產狀況を記すれば卽ち左の如し。

藁工品、本品は專ら北海道各地へ輸出するものにして年と共に其產額を增加す。主產地は南津輕北津輕及中津輕郡にして元之れ農家の副業として極力奬勵を加へたるものなり。今や縣下至る所に產す、而して生產地の製作狀況を擧ぐれば老幼男女晝夜を分たず、苟も農閑に際しては本業に從事せざるものなく、十一、二歲の子女も大人の助手として此事に從事する狀況なり。從業戶數は三万七千九百四十二戶なり。

竹細工及杞柳細工、本品は何れも數年前の奬勵に係り未だ著しき產額を見ず、然れども將來甚だ有望なる工作業なり。主業地竹細工中津輕郡、杞柳細工北津輕郡とし、而して其製品は主として

手提籠、柳行李類にして、籠は多く伊太利に輸出す。

蔓細工、本業の起源詳ならずと雖も今を去る八十年前、或る老人中津輕郡嶽溫泉に來り湯治中徒然の餘山中に入りて木蔓通を採取し、一の現具を製作せるに同郡大浦村古川某なるもの之を見て其重寶なるを感じ、之が傳習を受け居村に歸來製作に從事したるを嚆矢とす。後明治十八年頃に至り同郡大浦村小山某其業を起し製作に從事したり。當時の製作品は主に婦人用裁縫具或は小兒現具の類のみに限られたりしも、其後明治二十四年漸く提籃、洋器入、菓子盆の如き物を製作するに至り、地方的副業として近來各所に產出し、亦近來縣下各小學校に於ても本業を手工科に加へ盛に教授しつゝあり。

漆器、津輕塗は弘前市の特產にして此製造家數僅々十一戸、職工九十八人、年產額四万圓內外に過ぎず。然れども津輕塗は若狹塗の少しく崩れたるものにして今を去る二百年前の考案に係り、普通三十八回乃至四十八回も塗重ねるものにして、其技巧に於ても優に特產たるの資格を失ず。

第五節　商業

青森縣に於ける商業地は青森、弘前二市及八戸町の三個所なり、爾來商業の萎靡振はざるは其位

置東北の極部に僻在する爲めにも非ず、地域狹隘の爲にも非ず、亦交通不便なるが爲めにも非ざるなり。其位置よりすれば寧ろ商業殷賑ならざる可らざる地方なり、土地狹隘の嫌あるも運輸交通の便決して備はらざるものと云ふ可ず、之れ亦東北の一部として論ずれば商業取引上多大の便宜を有するものなり。然るに青森縣の商業靡々として振はざるは其原因那邊に存するや、既に論じたるが如く地方人に發奮興起の思想なく、怠惰なる生活狀態は益々單調に流れて心身共に萎靡振はず、生活物資は常に自作自辨を以て足れりとして、他地方と交通するを好まざる惡習癖を馴致す。況や自己の生產を商品となし廣く多數需要者の嗜好に應じて販路を擴め、信用を維持せんとするが如きは容易に望み得べからざる事柄にして產業興らざるも亦た所以あり。殊に商業の殷賑は各種產業、殊に有力なる工業の發達隆盛を俟て始めて期し得べきものなり。現に一葦對水の北海道の實力は年と共に其勢力を增進しつゝあり。然るに青森縣は最も隣接して取引上多大の便宜あるに拘はらず、北海道に對して供給する物資は纔に米穀、繩莚類の二、三品に過ぎず。亦近時鐵道の便東西に開け陸運意の儘なるに京阪其他の地方に對する取引關係頗る薄きものあり。更に弘前には第八師團あり、大湊には海軍要港部あり、其他奧羽種馬牧場、軍馬補充部支部等の國家重要機關設置せられあるも、之等大需要者に向ての取引關係は主に他地方人の手に收められ、青森

縣人は一指だも染むる能はざるの境涯にあり。如斯きは皆人心萎靡振はず、産業興らざるの結果なり。決して土地の位置より來ものにも非ず、交通便否の關係より來るものにも非ざるなり。例へば普通の小取引するに方りても青森縣人の爲す所、往々目前の利に汲々として永遠の事を思はず、只管安價に買入れ高價に販賣するの念より外何ものもなく、從て貧弱なる商品は益々濫造に流れ、不信用なる取引關係は益々窮境に陷るに至り、地方商業の振興を阻害すること尠なしとせず。然れども近來外界の刺激に依り甚だしく青森縣人の頭腦啓發せられたるものありて最近青森、弘前二市に商業會議所の設置さるゝあり、亦各地に産業組合の設立頻々として起るあり、其他は地方人の來りて商業を營むもの年と共に增加する狀況あるを以て、青森縣に於ける産業及商業の面目を更むる亦遠きに非ざる可し。殊に青森市は東北本線及奥羽線の終點たるのみならず、前に津輕海峽の連絡船ありて本洲、北海道、樺太との連鎖地點として我國東北に於ける海陸の要衝たり。之を外にしては浦鹽、沿海洲に對し通商渡航の好位置を占め、且北米太平洋海岸に於ける東洋貿易の駸々として進みつゝある際、今や巴奈馬運河の開通を見るに至り、太平洋、太西洋、西比利亞の聯絡茲に成り、津輕海峽は實に其航路に方り、將來或は世界の一埠頭となるの期あるやも亦知る可らざるなり。

弘前市は舊來の市街にして村落其四圍に散在し、地方日用品の賣買盛に行はれ、八戸町は三戸郡に在る繁華の商業地にして同地方の物産概ね此の地に於て集散す、如斯く交通至便にして地勢の利を占むる青森縣か從來比較的産業振はざるは前段論じたる原因の外資金の充實缺乏と之が金利の高率なるとも亦其原因の一たるを失はず、而して資金缺乏せるが爲め金利の高きこと亦全國中殆ど其比を見ざる所なり、事情如斯くなるを以て青森縣の如き地方にありては他地方事業家の投資を歡迎し、低利の資本を利用すれば質本家及事業家相互の利益なりと云はざる可らず。

内地及北海道間の聯絡として鐵道院に於ては青森、函館間に總噸數千五百十八噸を有する汽船比羅夫丸、同田村丸の二艘を回航せしめ毎日雙互二回連絡を採り、連絡船定繫所よりは艀船、通船及び小蒸汽船を以て旅客、貨物の輸送を計れり、亦船入場は鐵道院及び日本郵船會社の經營に係るもの各一個所ありて、郵船會社の船入場は面積約一千七百五十坪、鐵道院船入場は面積約八千坪あり、構内船入場には海陸待合所を設けて旅客に便し聯絡上その遺憾なきを期せり。其他青森港に於ける海陸連鎖の設置は縣廳前正北方新安方町海岸に縣經營の新棧橋あり。之れ明治四十四年八月　聖上陛下皇太子殿下にて在し頃、北海道へ行啓の際落成したる記念棧橋なり。亦東方なる新濱町の棧橋は市制施行前より架設せるものにして共に灣内に出入する汽船帆船は之に依りて旅客

貨物の輸出入を爲しつゝあり、而して縣下商家戸數は專業一万四千六百六十一戸、兼業五千四百七十戸計二万百三十一戸にして現住總戸數の約二割强を占め、其人口は七万三千六百十一人なるが、内青森市は三千二百七十三戸、弘前市千七百八十一戸、同人口青森市一萬六千三百六十五人、弘前市三千九百五十三人なり。

貨物の輸出入、青森縣の生産物にして縣外へ輸出する重なるものは米穀、林檎、清酒、味噌、醬油、繩莚、檜材、鰯、織物、油類、牛馬、鷄卵、菓子等なり。其輸出地方は東京、横濱、大阪、神戸、下の關、北海道を主とし、輸入の重なるものは絹、綿織物、銅、鐵、陶磁器、石油、砂糖紙、果實、鹽鱒、鹽鮭、身缺鰊、鑵詰類等にして之等の仕入地は絹、綿織物類にありては東海道各縣及兩毛地方、日用雜品類にありては京阪を最とし海産物にありては北海道を主とす。而して交通運輸の便開くるに伴ひ貨物の集散益〻繁多となり逐年增加し來り、其輸出入額五年前に比し約一倍九割を增加するに至り、最近一個年間の狀況を擧ぐれば左の如し。

汽車輸出入貨物噸數、輸出三十六萬七千三百六十二噸、輸入二十四萬六千六百四十八噸、港灣輸出入貨物價額、輸出千百六十四萬三千九百二十二圓、輸入千三百九十一萬九千七百五十八圓なり、輿論機關としては東奥日報、陸奥日報、弘前新聞、弘前日報あり。

第九章 岩手縣

岩手縣は其位置東北地方東部の中央に在りて西は背梁山脈を以て山形、秋田二縣に境し、東は太平洋に臨み、北は名久井山脈を擁して青森縣に、南は平凡なる地續きを以て宮城縣に連結す。而して其面積千〇三十六方里にして、之に包容する市郡町村數市一、郡十三、町二十三、村二百十七個なり、大正三年四月現在戸數十三萬五千八百四十四戸、人口八十三萬三千五百五十八人にして男女相央ばせり。總人口を更に市及各郡に内譯すれば盛岡市四萬三千百〇三人、岩手郡一町二十四村七萬千八百六十人、柴波郡一町十四村四萬六千百三十七人、稗貫郡三町十三村五萬二千四百三十一人、和賀郡一町十六村六萬六千二百五十七人、膽澤郡二町十二村六萬四千〇三十八人、江刺郡一町十二村四萬八千七百〇四人、西磐井郡一町十四村五萬四千六百六十四人、東磐井郡二町二十一村七萬七千六百〇一人、氣仙郡二町二十村五萬八千百〇一人、上閉伊郡三町十四村六萬〇七百三十九人、下閉伊郡三町二十五村七萬三千〇七十人、九戸郡一町十九村六萬七千七百十八人、二戸郡二町十三村四萬九千百三十五人なり、而して一方里平均人口七百七十七人に該當す、人口增加割合は大正元年十二月現在に於ては八十萬千六百七十人、更に大正三年四月現在に於て

は前記八十三萬三千五百五十八人を算するに至り、一個年平均二萬人以上の增加を示せり。

第一節　地方思想の系統

岩手縣の地理と地方人の思想、人情、風俗との關係、舊藩と地方人の思想、人情、風俗との關係を觀るに、岩手縣の地理は福島、青森縣の如く地方人の思想、人情、風俗迄も支配する程複雜ならず、今日岩手縣地方の思想、人情、風俗を南北兩者に二分しつゝあるは全く地理以外舊藩の關係より來る現象なり、今岩手縣大體の地理的關係を觀るに、兎に角之を三分することを得べし。

卽ち沓々たる北上川は縣の中央を縱斷して縣の地形を東西に二分す、亦縣の最東部は約三十五里の延長を以て太平洋に臨み、北上川の流域に添ふ東部とは高原性を呈せる北上山脈に依り更に東西に兩分せられ、自から其區劃を異ならしむるものあり。然れども岩手縣の地理的關係は福島、青森縣等の如く、到抵地方人の思想、人情、風俗を左右支配す可き程複雜なる狀態を有する者に非ず。强て岩手縣の地理に區劃を立つれば以上の如くなるも、地方人の思想、人情、風俗は單純に地理關係のみよりして、其分脈不統一を認むること能はず、然るに一方舊藩と地方人の思想、人情、風俗との關係に至りては、交通開け事物の關係日に益々密ならんとする今日、尙舊藩關係依然

として岩手縣地方人の思想、人情、風俗を南北に二大別せり。而して北方は卽ち舊南部藩を代表し、南方は卽ち舊仙臺藩を代表するものなり。而して南北各思想、人情、風俗の中心地を有し、北方は昔時舊南部藩青森縣東部三郡を合せて十郡の勢力集權地たる盛岡地方之が中心たり。南方は水澤以南舊仙臺藩五郡にして舊田村藩領の一の關地方之が中心たり、更に南北兩者の有する思想人情、風俗の得失長短差異に就て之を論ずれば、北方盛岡地方の大體思想は少しく堅實敦厚の分子を缺如するものあり、然れども正確なる意味に於ける道德は未だ頽廢せるものありと云ふ可からず、思想不堅實なりと云ふも之を秋田、青森縣地方の思想と比較すれば勿論良好と云ひ得べきも、之を南方一の關地方の思想と比較するに於ては、一般に事に冷淡にして其取る所の態度に聊か無責任なる所あり、其氣風亦大體に於て不快活に傾き努力奮鬪心に缺如し、動もすれば屋內に蟄居して勞役を避け飮酒座食を好まんとする怠惰癖の掩ふ可からざるものあるが如きは、昔時其藩を同一にする關係より其性質の根本、青森縣東部地方人の思想、人情に近似するものなり。然れども道德觀念厚薄の一點に至りては青森縣地方人よりも勝りたる所ありと云ふを得べく、道德關係を離れて堅實の氣風を缺き心にもなき、無責任に流るゝは青森縣人に似て、而かも數理的觀念に缺乏せる結果なり、故に事業を起劃すれば十中の七、八迄て必ず愚なる失敗に畢りを告ぐ、其

實例枚擧に遑非ざるも顯著なるもの二、三を擧ぐれば、卽ち盛岡市の消防隊が同警察署長の注意に基き破損したる筒嘞を約二千圓にて修繕に出し、大正三年十一月初愈々修繕出來上りたるを以て、消防隊一同直ちに祝賀の宴を開きたるに、後日修繕費支拂に方り消防隊に一厘の所持金なく、止を得ず市の罹災救助殘餘金の使用方を縣廳に出願したるも却下せられ其後始末に狼狽したり、亦北方某村の蠶絲業組合が理事者の措置甚だ其當を得ざりし爲め、大正二年創業したるに拘はらず翌年破産の厄に遭遇し、其災厄の爲め村の中産民殆ど全部破産せんとしたる慘劇あり、亦主として北方地方に於て經營しつゝある三十餘個所の製絲場は、大正二年以來事業甚だ振はず、大正三年に至り殆ど全部事業を中止するの止むなき狀態に陷りたり而して、北方地方の最も顯著なる事業として傳ふ可きものは岩手輕便鐵道なり。之れ素北方人の事業たるを以て果せる哉其設計甚だ粗漏にして無責任なりし結果、事業は其央ばにして蹉跌の狀態を現出し、三十五圓拂込の株遂に十五圓迄で下落するに至りたり、然るに此慘狀を救濟せんが爲め大正三年末の岩手縣會に於て、之が繼續補助金十萬圓を可決し大津知事亦之に同意したり。大正三年中盛岡市附近に於て陶磁器製造事業を起すものありたるも、其計劃無責任無法にして失敗に畢れり、之れ畢竟地方人の思想に堅實なる數理的觀念乏しきが爲めなり、然るに舊仙臺藩に屬する南方五郡地方人の思想は、東北地方

人としては比較的快活の分子に富み且多少數理的性狀を有す、從て日常の行動快活堅實にして努力奮鬪の念に充つ、人情亦東北一流の質實敦厚にして道德觀念克く備はる、殊に南方地方中の東磐井郡の如きは其位置縣の最東南端に位し甚だ地の利を得ざるも、地方人の努力心は遂に郡經濟に向上せしめて縣下第一と爲し、敎育亦普及して他郡を凌駕しつゝあり。亦最近郡靑年會聯合して大活動を爲し一郡の風敎、亦は地方自治に貢獻したる幾干なるを知らず、亦敎育普及と共に氣風善良なる地方なるを以て警察關係に於ても玆十數年來殆と重大犯人を出だしたことあるを聞かず衆議院議員其他各種議員の選擧の如きも比較的正確に施行さるゝ地方なり。以上論じたる所を以てすれば岩手縣南北兩地方人の思想は、其道德的觀念に於ては大差なしと雖も理性發達の良否、努力心の厚薄、快活の氣風存在如何が兩地方人思想の最大差異たる可し、南方地方人は其思想理性に走りて空理空想を避け、事の堅實を貴て奮鬪努力發展を好む、從て物に澁滯せず、人に對する極めて快活なり、之に反し北方地方人は其思想理性に乏しく、動もすれば空想に走り、空理を弄せんとす、空理空想は吾人の努力心を永久に持續せしむる所以のものに非ず、努力心弛緩せば必ず失敗に畢る、人間の弱點として失敗の結果は必ず自暴に陷り、自棄に走るもの多し、北方地方人が南方地方人と異なり努力心に稀薄なるは、數理を忌て不堅實なる空理空想を貴ぶが爲めなり。

而して北方地方人に往々無責任の風あるは、堅忍不拔果敢の氣性を失ひ自暴自棄に陷り易きが爲めなり、而して北方地方人の有する思想の缺陷は青森、秋田縣地方人と其原因を同一にするものあるを以て、動もすれば政治的爭鬪に熱中せんとする癖あり、之れ亦大に南方地方人と其赴きを異にする所あり。然るに岩手縣地方の現狀は實に如斯き徒事なる、政治爭鬪に熱中して我事畢れりとす可き時期に非ず、岩手縣地方は教育關係に於て、産業の發達に於て他地方と比肩し得べき成績のもの一もなく、教育の不完全なるは徒に輕薄紳士作製の普通教育にのみ偏重し、今や各種産業と至大の關係ある實業教育を輕視せんするが如きは甚だ其當を得たるものに非ざるなり、政治的活動素より惡しきものに非ざるも、他の諸事業と對比して偏頗なる發達は益々地方人思想を不良にし、恒産を失はしめ、正確なる道德觀念を破壞し、勤勉善良の風地を拂ふて去るに至る可し、於茲乎岩手縣地方の如きは其事業の狀態より之を論ずるも、南北思想の異同を問はず地方人は各種産業の發達する迄て、中央政爭の關係より分離し、地方は地方として政治上の關係に獨立するを以て最も利益なりと思惟するものなり。

第二節　主要物産

岩手縣現今一個年の生産總額は四千四百二十餘萬圓以上の巨額に達し、之を內譯すれば農産物二千百五十八萬餘圓、養蠶産物五百十五萬餘圓、林産物三百七十二萬餘圓、水産物二百五十七萬餘圓、鑛産物四百三十餘萬圓、工産業物五百二十五萬餘圓、畜産物六十五萬餘圓等を主なるものとす而して之等の産物中年額百萬圓以上のものを算すれば米、麥、大豆、稗、繭、生絲、鐵、漁類、木材、酒類の十種なり。

更に之を細別して二十萬圓以上の主要なる物産を擧ぐれば米、麥、大豆、粟、稗、蕎麥、馬鈴薯、蘿蔔、鷄卵、桑葉、繭(春夏繭)生絲、木材、木炭、漁、鐵、金、銅、酒、醬油、馬匹等なり。

第十章　岩手縣の各種産業

第一節　農業

岩手縣の耕地は大正二年四月現在に於て十四萬〇〇〇七町歩、内水田五萬二千二百六十九町歩、畑八萬七千七百三十八町歩、水田自作三萬千五百八十二町歩、小作二萬〇六百八十六町歩、畑自作六萬三千〇二十二町歩、小作二萬四千七百十七町歩、農業戸數九萬三千七百三十四戸、内自作戸數三萬九千九百六十五戸、小作戸數一萬七千三百四十二戸、自作小作兼業戸數三萬六千四百二十七戸、一戸當耕作平均反別水田七反歩、畑九反歩なり、而して之が一個年間に生産する農産額は二千百五十餘圓に上り、縣産業上最も重要なる地位にあり、之が消長亦縣經濟に至大の關係を有するなり、農作中穀菽類の普通作物は多少の差あるも縣下到る所産出せざるなく、米の平年産額約七十萬石此價額約千三百餘萬圓にして、豐作の結果大正三年は十二萬九百三十九石を增收したり、麥の平年産額約三十二萬餘石、此價額約二百五十餘萬圓、大豆平年産額約十四萬餘石、此價額約百四十餘萬圓、粟平年産頭約六萬餘石、此價額約五十七萬餘圓、稗平年産額約二十三萬餘石、此價額約百二十四萬餘圓、蕎麥平年産額約三萬五千餘石、此價額約三十八萬餘圓、馬鈴薯平

年産額約六百二萬餘貫、此價額約四十六萬餘圓、蘿蔔平年産額約二千三十三萬餘貫、此價額約七十餘萬圓、食用作物小豆平年産額約一萬五千餘石、此價額約十八萬餘圓以下黍、玉蜀黍、胡蘿蔔午蒡總額約三十七萬餘圓、特用作物大麻平年産額約十萬九千餘貫、此價額約十六萬餘圓、煙草平年産額約十五萬餘貫、此價額十萬餘圓以下菜種、豌豆、蠶豆、青芋、蒟蒻總計三十七種此價額約八十六萬餘圓なり、而して特用作物中國産とも云ふ可き葉煙草の産地は牌貫郡七萬四千五百餘貫、東磐井郡六萬〇九百餘貫、上閉伊郡一萬三千九百餘貫、二戸郡千三百餘貫なり、果樹梨、苹果、葡萄、梅、桃、柿、栗、櫻桃、榅桲、柑橘類産額約二十八萬餘圓、家禽及産卵産額約三十三萬餘圓、而して岩手縣は其面積殆ど畿内に比敵する壙漠たる土地を有するを以て、今後尚水田、畑等に開墾す可き耕作餘地優に六萬餘町歩あり、亦現今岩手縣人の食す可き米の不足額は約二十萬石にして、此不足米は主として東海岸地方に供給せらるゝものなり、肥料は年額約三十五萬圓を他縣より輸入使用しつゝあり、然れども現在の耕地面積と比較して肥料の使用少なきに過ぐる嫌あり、亦米の主産地は黒澤尻、水澤方面なり。

第二節　蠶絲業

岩手縣は氣候、風土最も養蠶飼育に適するに拘はらず福島、宮城、山形縣地方に比し其發達甚だ遲々たるものあり、其原因何所に存するや之を知る可からずと雖も、福島縣の如きは今や產繭額二十二萬石に及び尙年々二萬石前後の增產を見つゝある狀態なり、然るに岩手縣は總收繭額約七萬餘石內春蠶收繭約六萬餘石、夏蠶收繭約六千餘石、秋蠶收繭約四千餘石に過ぎず、之が飼養戶數約三萬五千六百餘戶、掃立枚數約五萬四千三百餘枚、而して最高收繭地は東磐井郡にして春蠶收繭高約一萬七千三百餘石、秋蠶收繭高約千六百餘石なり。而して產繭價額約二百四十餘萬圓、更に製絲總額約四萬二千九百四十餘貫、此價額約百七十七萬餘圓、而して製絲狀況に至りては其種類器械、坐繰、玉絲にして大正二年四月現在製絲總戶數二千八百十四戶、內十人繰未滿二千七百三十六戶、十人繰以上四十七戶、五十人繰以上二十五戶、百人繰以上六戶なり。

第三節 林業

岩手縣に於ける大正二年四月現在の森林總面積九十一萬二千五百〇六町步、內國有森林四十四萬二千九百七十四町步、御料森林二萬二千八百二十九町步、私有森林(公有、社寺有を含む)四十四萬六千七百〇三町步、而して之が年產額約三百七十餘萬圓、內國有森林產額約三十七萬餘圓、私有

森林總產額約三百三十四萬餘圓、內用材約九十一萬餘圓、薪炭材約六十五萬餘圓、林產雜類約七十八萬餘圓なり。

第四節 水產業

岩手縣海岸延長里程約三十五里、而して其間氣仙郡大船渡、米崎、小友、廣田の各濱、長部、赤崎、綾里、吉濱、越喜來、唐丹の各灣上閉伊郡釜石、大槌、兩石の各港、下閉伊郡宮古、鍬が崎山田、崎山、田老、小本、田野畑、普代、磯鷄、津輕石、重茂、大津、織笠、船越各港灣浦九戶郡久滋、長內、宇部、野田、米崎、中野村、侍濱村、種市の濱浦海濱あるに拘はらず同一海岸に臨む福島、宮城縣等と比較して漁業頗る振興せざる狀態なり、同縣最近の漁業年產額約二百四十六萬餘圓、內沿岸漁業約百四十六萬六千餘圓、其內各種魚類約八十七萬三千餘圓、貝類約十六萬八千餘圓、其他水產動物海藻類約四十二萬三千餘圓、遠洋漁業九十九萬四千餘圓、而して大正二年四月現在漁船四千九百七十六艘、內日本形四千九百五十八艘、西洋形帆船十八艘なり、而して東京地方に於て最も需要多きサンマ等は岩手縣地方の海洋に於て未だ漁獲なし、之れ尙當業者の研究足らざる結果にして、多額の肥料に缺乏しつゝある同縣は之等漁獲の多大なる漁族を漁獲し

て一般食用の外肥料に供給するも多大の利益なる可しと信ずるなり、

第五節 鑛業

岩手縣は亦各種鑛物に豐富なりと雖も其發達遠く秋田縣に及ばず、大正二年四月現在に於ける之が試掘數二百三十二個所、採掘數二百二十一個所、採掘坪數四千五百五萬六千三百十三坪なり、各郡殆ど鑛區の存在せざるものなし、而して鑛物の種類は金、銀、銅、鐵、硫黃以下各種の鑛物を產出し、卜閉伊郡の金、銀、銅、鐵は其產量最も豐富なり、亦大正三年中岩手山の麓に產量無盡藏と稱す可き優秀の硫黃山を發見し、目下橫濱の岡部組なる事業家の手に依り採掘されつゝあり、而して鑛產物最近年產額約四百三十餘萬圓、內鐵約三百十八萬餘圓、金約四十一萬餘圓、銅約七十七萬餘圓なり。

第六節 工業

岩手縣の工業物には未だ見る可きものなきも之が最近年產額約五百二十五萬餘圓に達す、而して更に之を細別すれば酒類二百九十一萬餘圓、之が工場數千九百二十五個所、金屬製品百〇八萬餘圓

醬油二十五萬餘圓之が工場數百十九個所、織物十二萬餘圓、之が職工數二千九百七人、藁製品十二萬餘圓、漆器三萬二千餘圓、其他指物、疊表、漆液、和紙、經木眞田、罐詰、親類總額約七十七萬餘圓なり。

輿論機關としては岩手毎日、岩手公論、岩手日報、岩手新聞、岩手民報あり。

第十一章　宮城縣

宮城縣は奥羽の中心を占め、東は太平洋に臨み、南は福島縣に接し、北は岩手縣と界し、西は疊嶺嶂を隔てゝ秋田、山形の二縣に亘り、其面積四百六十八方里にして、之に包容する市郡町村數市一、郡十六、町三十五、村六十八個所なり、大正三年四月現在戸數十四萬九千五百四十四戸、人口九十一萬九千九百六十人にして男女相半ばせり、總人口を更に市各郡に内譯すれば仙臺市九萬七千百三十一人、刈田郡一町十村四萬四千九百四十六人、柴田郡三町五村三萬九千三百人、伊具郡三町十二村四萬九千四百二十一人、亘理郡一町五村二萬七千九百四十三人、名取郡二町十三村六萬〇八百六十人、宮城郡二町十二村七萬九千百三十人、加美郡一町六村二萬九千五百三十七人、志田郡三町六村四萬二千三百四十一人、玉造郡一町六村二萬四千七百六十七人、遠田郡三町九村四萬四千六百十六人、栗原郡四町二十五村九萬〇百三十三人、登米郡四町十二村七萬六千三百十二人、桃生郡一町十八村六萬五千六百九十八人、牡鹿郡二町六村五萬三千百五十四人、本吉郡三町十四村六萬六千七百八十五人、黑川郡一町九村二萬七千八百八十六人なり、而して一方里の平均人口千九百十人餘、人口增加割合は明治四十一年十二月現在八十六萬九千九百十七人、大

正三年四月現在人口九十一萬九百六十人と比較すれば一個年約八千人餘の增加を示せり若し夫れ地勢の關係に至りては、山の崇峻を極むるものは栗駒、荒雄、舟形、刈田の諸嶽あり、水の浩蕩たるは北上、阿武隈の二大川あり、西北南は山嶽多くして耕耘に適せざれとも、中央より東部に至りては土壤肥沃にして平野遠く連り米穀の產出最も多し、牡鹿半島は遠く海中に斗出して東端に金華山の孤峰あり、之より遙に宮城郡に對し一大灣形をなせるは所謂仙臺灣是なり、灣内島嶼多く其最も顯るゝものを日本三景の一たる松島とす、市街の最も繁華なるものは仙臺市にして之に次ぐものは石卷、古川、若柳、白石、涌谷、氣仙沼、角田町なり、國道は福島縣より白石、大河原を過ぎ仙臺を貫き、更に北方古川、築館を經て岩手縣一の關に至るは陸羽街道にして此延長三十八里之を中央線とす、亦名取郡岩沼より海岸福島縣中村に入るものは陸前濱街道にして此延長六里二十八丁なり、縣道は其主要なるもの三十七線あり。

第一節　地方思想の衰退

東北地方進歩の狀態を見るに、今日稍々交通機關備はり各種取引關係頗繁たる時に於ても其發達狀態二途に岐れ、一は卽ち背梁山脈を線緯として西海岸に山形、秋田、青森縣の一部之れに屬し

一は東海岸に臨みて福島、宮城、岩手、青森縣の一部之に屬して全然異なりたる思想、人情、風俗を以て各別の進歩發達を爲せり、況や昔時全く交通機關不備なりし時代に於ては、地方の發達自然の狀態に任ずるより外途なかりしならん、而して東北地方中に於ても地理的自然の關係より福島、宮城、岩手三縣及青森縣の一部は大體に於て同一の係統を以て進歩發達を爲るものなり、此四縣中に於て宮城縣地方は地理的關係より、將た舊藩勢力の關係より東部發達の中心たらざる可からざる關係を有せり、然るに昔時の宮城縣地方は獨り東部發達の中心たるのみならず、東北方面の覇者として殆ど其指揮意の如くならざるなき地位と勢力とを有したるものなり、昔時福島岩手及び青森縣の一部は思想、人情、風俗の末枝に至る迄て多少宮城縣地方の感化を被らざりしものなしと云ふも不可なく、故に他地方人は今日と雖も東北地方代表の意味にて宮城縣を例に引用すること尠なからず、之れ畢竟宮城縣地方は舊時東北の覇者として威を四邊に振へたる惰力に外ならざる可し、然るに今や地方の事情は昔時のことを墨守せず、福島、岩手、青森縣地方は多少見る可き何等かの進歩を爲したるに、獨り宮城縣地方は種々便利と設備とを有するに拘らず、最近何等發達の痕跡を認むる能はず、而して亦世人は宮城縣地方と云へば直に仙臺市を聯想す、世人の仙臺市を見る獨り宮城縣地方の代表のみを以てせず、之を以て東北地方の代表地方と思惟

するが如し、然るに舊時の仙臺市なるものは姑く措き、今日の仙臺市は其發達狀況及び思想、人情、風俗必ずしも善良と云ふ可からざる嫌あるを以て、精神的關係よりすれば完全に東北地方を代表し得べき資格あるものと認容する能はず、若し仙臺地方人今日の思想と、振はざる其元氣とを以て推移せば仙臺地方には玆數年間堅實なる思想に基く產業發達の希望は容易に之を認むるを得ず、現に從來宮城縣地方の有したりし商業上の關鍵の如きは、漸次山形縣地方に奪はれ、福島縣地方に壓せられ、乃至は岩手、秋田縣等に迄て蠶食せられんとする容易ならざる形勢に陷りつゝあり、仙臺地方に對しては勿論、宮城縣地方に對しても隣接諸縣に於て近來多少輕視の意を仄めかし、此地方を以て單に舊時に於ける歷史の殘骸を止むるに過ぎざる老衰地方たるを免れずと爲して憚からざるの風あり、然るに宮城縣地方人の多くは既に四隣より放たれつゝある此聲を知らざるのみならず、今日既に推移せる社會の新事情と、他より老衰視せられつゝある自己の眞境遇、と東北中に於て甚だ不況の狀態に陷りつゝある自己の立場とを解せざるものゝ如く、動もすれば伊達政宗の宗地たる歷史と、現に九萬有餘の人口を有する仙臺市の繁華とを夢想して更に他意なからんとするの弊を有す、よし假りに一歩を讓り宮城縣地方人に對しては往時隆盛の歷史に尊敬を拂ふとするも、今日の社會事情は全く往時の社會事情に非ず、今日宮城縣地方人の有する溫

厚に失して元氣なき不徹底の嫌ある意思を以てしては何事も新發展は之を許さず、之れ今日の社會事情の然らしむる所にして、此新社會事情に隨伴し、同化し、馴練し、鍛磨して他に長するものは時の優越者なり、産業然り、思想然り、人情然り、風俗然り、一として之を度外するものは必ず他に後るゝものなり、智者なりと雖も常に其識見を練磨達成するに非ざれば必ず他に後る、勇者なりと雖も常に其勇を鼓するなきに於ては必ず他に壓せらる、今日の宮城縣地方人は卽ち然る類なり、宮城縣地方人は兎角往時の事情に制せらるゝ傾向を有して、徒に歷史の形骸に囚はれ、今日の新社會に必要なる堅實不拔の發展準備を思はず、吾人が宮城縣地方人に對し敢て苦言を呈せんとするは畢竟之が爲めなり、更に地理的關係より宮城縣地方人の思想、人情、風俗の差異を論じ得られざるに非ざるも、既に其大體を論じたるが如く宮城縣地方は舊藩の關係最大根底となり、思想、人情、風俗を形成するを以て、敢て殊更に地理的關係を微細に論ずるの必要を認めず、玆には主として仙臺地方を論じて宮城縣地方全般の論評に代へんとす、仙臺地方人の思想、人情、風俗を赤裸々に評すれば、平々坦々何等希望なき曠野を辿るの感なき能はず、卽ち前段所論の如く仙臺地方人は餘りに元氣に乏しく、而かも純良溫厚に過ぎて元氣縱橫なる他地方人と伍するの至難を思はずんば非ず、若し仙臺地方人にしては此儘推移するに於ては、尙ほ將來甚だ樂觀を許さ

ず、或は從來東北地方の代表地方と迄て謠はれて一種の特徵あり、希望あり、勇氣ありと認められたる仙臺地方が一朝其位地より脫落せんも圖り知る可からず。若し他地方人の惡聲の如く將來老衰敗殘の地方たり畢ること有らば、何を以て自己地方の面目を保ち、仙臺地方を東北の中京と稱するを得べき。今日の適切なる關係を以てせば、東北の大都會たる仙臺地方は其關係東京と名古屋の類に非ずして、大阪に對する京都の關係を有するに非ざるなきか、一は卽ち益々發達するに反し、他は日に益々老衰し、昔時の優秀なりし歷史の一點を止むるに過ぎざると同一關係なり。仙臺地方人は東北人に通例の溫厚なる天性を以てして尙且輕薄なる都會風に馴致せられ、外觀旣に賢實の風を缺き、人心稍々萎靡の憾なくんば非ず。更に近來東京地方より流入する惡風の傳播速にして、地方人の多く之を學ばざるを耻るの風あり、而して徒に華美に流るゝの風は地方の風俗を下品にし、遂に人情迄をも劣惡に誘導する感なきを得ず。今や仙臺地方人の思想、人情、風俗を各種の事情より觀察せば同地方の將來は頗る興味ある問題也。人或は云ふ仙臺地方は例ば都會の公園地に於ける樹木の如し、停然限られたる一局部に其姿を止め、朦々たる煤煙と、風塵の爲めに慘害せられて早晩枯死せざる可からざる運命を有するものなりと、吾人は如斯く極端に悲觀するものに非ざるも、現狀幾多の事情より觀察し打算して亦多少の悲觀と異論なき能はず。然れども仙臺地

方の如きは一地方の都會として獨り人口豐富なるのみならず、地形甚だ優秀にして海陸の交通狀態有利の地位にあり、然るに今日尙地方に見るに足る可き工業興らず、商業漸次衰退せんとするが如きは何ぞや、之れ吾人の疑惑措く能はざる所なり。今仙臺地方に對し吾人をして露骨なる觀察を爲さしむれば、地方人は天與の地利を有利に利用し得る智識と、元氣と、努力とに乏しきが爲めに此不振に陷りつゝあるに非ざるなきか、亦仙臺地方人は四隣壙漠たる水田に圍繞せられ、林の如き森の中に多數人を擁して居を構へ、多數學生、所謂官公吏及び旅人相手の生活に滿足しつゝあるより起る禍に非ざるなきか、如斯く地方人に奮鬪の勇なきは將來或は敗北の地位に立たんとする證憑に非ざるなきか、吾人如何に好意を以て之を解するも、仙臺地方に對しては交々幾多の疑惑と憂慮とを生せざるを得ず、吾人は好んで妄りに此評を爲すものに非ず、地方人も亦吾人の意を誤解することなく大なる注意を以て自己の將來を思はんことを切望す。若し今日に於て吾人の言に顧る所なくんば最後は必ず希望ある、勇氣ある、特徵ある山形、福島、岩手の隣接諸縣より自然的壓迫を蒙り悲運の境涯に陷らん、今日東北地方に於て積極的に不良なる地方は果して其何所なるか吾人之を知らざれども、而かも宮城縣地方の如きは消極的に其成績善良ならざる傾向を有せり、然れども幸に仙臺否宮城縣地方には積極的に思想、人情に缺陷尠なく、道德稍々

備はり、人情比較的頽廢せず、風俗未だ極端に亂れたりと云ふに非ざれば、今後地方人の努力如何に依り必ずしも悲觀のみを以て對す可きものに非ざるなり。

第二節　主要物産

宮城縣現今一個年の生産總額四千四百二十餘萬圓に達し、更に之を內譯すれば農産物三千三百七十餘萬圓、畜産物七十餘萬圓、林産物二百四十餘萬圓、鑛産物十八萬餘圓、水産物二百四十餘萬圓、工産物四百七十五萬餘圓なり、更に之を物産各種類に就き其産額を示せば米二千二百十八萬餘圓、繭三百七十萬餘圓、麥三百三十三萬餘圓、産卵三十五萬餘圓、製材八十八萬餘圓、木炭五十六萬餘圓、金十三萬餘圓、鹹水漁獲物百餘萬圓、遠洋漁獲物四十三萬餘圓、酒類百八十六萬圓、蠶絲五十四萬餘圓、醬油二十五萬餘圓にして而して之が一戸平均配當額三百七十圓、一人平均配當額五十八圓なり。

第十二章　宮城縣の各種產物

第一節　農業

宮城縣に於ける農產物は各種產業中最も重要の地位を占め、之が消長地方經濟狀態を左右す可き重大關係を有す、而して大正元年十二月現在耕作反別水田八萬六千三百八十四町歩、畑五萬五千七百七十町歩、農業戸數八萬六千八百六十九戸、內自作二萬二千四百十三戸、小作二萬九千四百六十戸、自作兼小作三萬四千九百九十六戸、其總從業人員八萬六千六百五十七人なり。

米の平年收穫は百二十萬石にして豐作の結果大正三年は三十五萬七千百〇五石の增收を見たり、而して平年約三十萬石の輸出あり。亦水田に耕地整理の行はれたる反別二萬四百七十一町歩なり。農產物中米に次ぐものは夾麥にして之が平年產額四十萬石を算し、其他食用農產物は大豆十萬石、小豆二萬石、蔬菜類主なるものは蘿蔔、馬鈴薯、菘類、特用作物としては菜藍、大麻、三極、楮、蘭等なり。果樹梨、桃、葡萄、柿等何れも福島山形縣等と比較し其產額甚だ少なし

第二節　蠶絲業

宮城縣の蠶絲業は最近異數の進步發展を爲し東北に於て第三位に位し、米に次ぐ重要物產なり。而して大正三年の收繭額約十萬三千石にして此價額三百七十餘萬圓、內春蠶收繭額七萬六千九百石、夏蠶同千三百石、秋蠶同二萬五千百石、之が飼養戸數五萬二千七百五十九戸、內春蠶三萬六戸、夏蠶千九百十五戸、秋蠶二萬八百五十二戸なり。而して之に對する桑葉反別一萬六千七百八町歩に上る、亦之が飼養に對する各郡の狀況を見るに伊具郡の九千四百五十六石、登米郡の八千七百四十石、本吉郡の八千八百八石を最收繭量額として各郡何れも相當飼養せざるものなく、此點多少岩手縣の不同不平均の狀態と其選を異にするものなり。製絲は機械、座繰、玉絲の三種に別れ、目下工場組織を以て製絲に從事しつゝあるもの二十餘個所の多數に上り、製絲總戸數五千八百九十四戸、內機械百人繰以上七戸、同五十人繰以上十六戸、同十人繰以上三十戸、座繰十人繰以上五十繰未滿二戸、同十人繰未滿四千七百五十三戸、玉絲十人繰未滿千百十五戸なり。而して製絲總產額五萬三千五百六十四貫、內生絲機械四萬二千百七十六貫、座繰八千六百七十貫、玉絲三百五十一貫、屑斗絲二千三百六十七貫、製絲總價額二百七十二萬六千九十二圓、內機械二百二十九萬三千五百七十二圓、座繰四十三萬千三十九圓、玉絲八千八百八十七圓、屑斗絲二萬五百九十四圓なり。

第三節　林業

宮城縣に於ける大正二年四月現在森林總反別三十二萬五千五百十三町歩、內國有森林十四萬二千七百十八町歩、私有森林(公有、社寺有を含む)十八萬二百九十五町歩、外に純原野總反別一萬六千二百十九町歩あり、而して之より生產したる用材、薪炭材、竹材其他の總產額二百四十萬五千六百八十五圓、內製材八十八萬九千百五十七圓、木炭五十六萬九千五百六圓を主たるものとす。

第四節　鑛業

宮城縣に於ける大正二年四月現在鑛業鑛區數は四十九個所、內金八、金銀七、金銀銅二、金銀銅鉛一、金銅二、銀銅鉛亞鉛一、銅一、石炭一、亞炭二十五、硫黃一、此總坪數九百二十九萬四千十九坪、此生產總額二十萬八千五百七十三圓なり。

第五節　水產業

宮城縣に於て海岸に臨みたる郡は亘理、名取、宮城、桃生、牡鹿、本吉の六郡にして、此海岸延長

里數約三十五里餘、大正二年四月現在水產總額二百四十一萬五百十九圓、內漁獲物百六十千三百二十七圓、其內鹹水漁獲物百二萬九千百四十四圓、遠洋漁獲物四十三萬四千百四十九圓、淡水漁獲物十三萬八千八百三十圓、鹹水漁獲の重要なるものは鰹、鮪、鰯、鯛、目刺、鯨、淡水漁獲物の主たるものは鮭なりとす。養殖收獲總額九萬六百九十一圓、主產物は鯉、牡蠣、海苔、鰻、養殖場數六百二個所、海苔は本吉郡氣仙沼を以て主產地と爲し本吉郡の產額四萬九千餘圓外に水產製造物總產額百二十二萬二千二百二十八圓、食鹽產額六萬七千八百三十二圓、漁船數日本形總數一萬八百五十艘、五間以上百七十一艘、三間以上二千五百九十三艘、三間未滿八千八十六艘西洋形帆船及汽船總數三十三艘、漁戶總數一萬千四百七十一戶、漁業人數二萬二千五百二十八人なるか亦金華山沖は近來益捕鯨業隆盛を極め一個年捕獲頭數約四百頭內外なり。

第六節　工業

宮城縣に於ける工業は殆ど見るに足るものなしと云ふも不可なく、工產總額僅に四百七十五萬九千餘圓を算するも、自家使用の酒、醬油を主とし他の主要物產は蠶業に必然伴ふ製絲業を最高額とす、工場と稱するもの總數百六十一個所にして、其種類を擧ぐれば生絲二十個所、紡績及製綿

二個所、洋服裁縫一個所、織物三個所、金屬製機械器具五個所、船及車二個所、硝子二個所、煉瓦及瓦二個所、カーバイト一個所、和紙及强製紙三個所、染色四個所、肥料六個所、酒類味噌醬油二十三個所、刻煙草三個所、鑵詰及水產製造物十六個所、活版印刷物及製本七個所、紙製品及空氣鞠一個所、製材及經木一個所、木竹製品及刺物細工一個所、杞柳細工一個所、毛筆一個所、石材採掘及石細工十二個所、漆器及埋木細工一個所、綱及麻絲一個所、採鑛四個所內直接從業人二百人以上の工場七個所、百人以上の工場三個所、五十人以上の工場二十一個所、五十人未滿の工場百三十個所にして、工場直接從業人總數七千二百六十人、內男二千百三十五人、女五千百二十五人なり。絹織物、綿織物其他總產額六十萬八千六百四十一圓、內特產仙台平袴地九萬六千二百六十九圓に過きず。綿織物二十萬九千二百九十圓、其他特產埋木細工產額三萬九千三百五十圓漆物產額四十六萬千百九十三圓、漆器產額十二萬六千六百九十二圓、鐵物類產額十六萬二千三百二圓、疊表其產類產額十萬二千百八十四圓、毛筆產額九萬七千九圓、石細工產額二十六萬九千二百二十六圓、尙傘、杞柳細工、竹細工、製紙等最少產額の工業物數種あるも福島、山形縣の工業產物と比較すれば一も出色のものなきは甚だ遺憾なり。

輿論機關としては河北新報、台仙日々、石卷日々あり。

第四編　東北開發策錄餘

第一章　東北に於ける當面の諸問題

第一節　爲政家の責任範圍

我東北地方の開發助長策に就ては、從來世上識者の間に種々幾多の議論ある所なり、東北地方の發達遲々として進まざるに就ては、素より何等か深き原因なくんば非ざるなり。人或は云ふ東北彼れが如き慘狀は、維新以來其野心を逞ふしたる南方出身の政治家、依估の政治を施し、東北地方に對し極度の壓迫虐待を爲したるが爲めに外ならず、其惰力として現在に於ても東北は租稅に於て、鐵道運賃に於て、甚だ不利益なる位置に居り、民富の度低きに拘はらず、國家に對し、他より高價なる犧牲を拂ひつつありと、或は然らん、然れども東北地方は他地方の狀態と比較し、旣に開發せらる可くして未だ開發其緒に就かざるに就ては尙他に幾多强力なる理由なくんば非ざるなり東北地方は如何に辯護に努むと雖も其地勢の惡しき之を他地方と比較することを得ず、玆に所謂地勢の惡きと云ふは、山岳崛起して平野沃土に乏しく、其面積の廣き割合に田畑少なき狀態を指す

にあり、然し田畑少なしと云ふも、決して自から衣食するに足らずと云ふに非ず、唯永く如斯き狀態にあるに於ては、農業を主とする地方人にして貯財を起し、富を進め、社會の進運に副ふことを思ひも依らざる可し、既に財貨に乏しき東北地方、人智の養成と、交通機關の設備に於ても他に後るること亦大なり、此人智足らずして產業起らざると、交通機關の設備完整せざるとは、益々東北地方をして不振ならしむる以所なり。

亦東北地方に於ける教育現狀如何を顧みるに、東北地方は之を他地方に比較し實際教育の程度甚だ低し、東北地方人の教育足らざるは、從來永く慣習的に行はれ來りたる關係にして今俄に起りたる現象に非ず、之と相關連し東北人の惡癖として世上より指彈せられつつあるものは教育問題として最も重大なる子弟教育の義務を義務とせざるが如き思想なり、東北開發は從來他地方人に依りて唱導せらるると雖も、之れ他地方人の克くす可き問題に非ず、東北開發は東北人自身の必ず爲さざる可からざる問題なり、然るに東北人にして此惡癖を改め子弟の教育を義務として一般智識を向進せしむるに非ざるに於ては、東北發展の基礎何時の世にか確立するを得べき、世上東北發展に就きて此本末を轉倒し、唯一時に農業、或は其他の產業にのみ依りて之を爲さんとするは誤りなり、此等區々たる改良は永久に、亦完全に東北の事績を期し得べきものに非ざるなり、

世人稍もすれば教育と各種產業との關係を間接のこと丶爲し、之を輕視せんとするの傾向あるも、教育のことは直接の關係に非ず、例へば國家が吾人に對し絕えず完全なる教育を施さんと努むるは、其結果自然吾人の事物に對する趣味を汎くし、且、深からしめ之に依りて各自の發展と、向上と、進步とを期せしめんとする間接の關係にあるものなり、而して現今に於ける東北地方の發展如何も亦此教育問題の改良に存するは說明を要せざるなり。

第二節　自治觀念養成の必要

既に我國に自治の制度を施行されて玆に二十有七年、今日尙地方治績の擧がると擧がらざるとは偶々以て我國に對する自治制度の適否如何を判斷する材料たらずんば非ず。而して元來自治は其根本に於て、他の助力に依りて自から治むるの任務を全ふす可きものに非ず、地方自治體にして若し過りて他の補助に依らんか、之が爲め永久に惡關係を及ぼすこと丶なり、遂に其目的を達すること態はざるに至る。而して我國自治の現狀如何を顧みるに、全く自力に依りて治むる完全の團體なし、全く自力に依りて治むること能はざるものは自治の觀念を沒却するものたり。從來我國政府の自治團體に對する政策なるもの、凡ての關係に於て政府當路の權力關係を偉大ならしめ

んが爲め、常に自治團體に對する治主の權力を縮少し、自から活動するの餘地を與へしめざるを以て其目的とす、故に現今の自治團體は事大小となく、當路の意のある所に隨はんとすることに汲々たり、其結果自治團體の組織要素たる地方人民に依賴心を養成し、今や漸く自力統治の觀念を沒却せんとする狀態なり、之れ卽ち我國政策の歐米諸國と異なる以所にして、我國家の產業其他の遲々として振興せざる理由の幾分も亦此所に存するなり。

今玆に絮說の要なきも、自治と云ふが如き事業は、他より姑息の補助を得、亦は姑息の依賴心を起すを以て其弊害あるものとす、自治の如き深大の注意と永き歲月とを要する事業は、常に各自の信ずる所に依り努力奮鬪せざるに於ては、決して豫期の好結果を擧げ得べきものに非ず。

東北を開發するに就ても地方人に對し精神上、思想上の改良として一般敎育を進むるは勿論、地方發展の基礎たる可き自治觀念の養成を忘ざる可からず。物質上に於ける、改良として一般產業の發展を圖るが如きは卽ち第二位なり、若し此順序を踏まずして徒らに發展を圖り、開發を企つるに於ては之れ皮相の發展、皮相の開發にして、例へば現今我國に於ける憲法政治の如く、其名と、其實と相伴はざる結果を見るに至る可し、故に下院の選擧を行へば賄賂公行、名もなき、亦主義もなき腐敗者を多數に出すを常態とす、亦自治團體の如きは其根本の旨意を沒却し、敢て他者不

當の干涉に甘ずるが如き皆其結果たらざるはなし、眞に愼まざる可らざるは事の順序なりとす。

第三節　物質上の改良

物質上に於ける東北開發策として現狀に鑑み、先づ着手す可き適當の事業は世間に行はれ易き商業に非ずして、農業と、少數の特殊產業なり。東北地方は其面積の廣大なる丈け未だ手の入らざる未開の山野尠なからず、故に今後の東北地方は此點に於て他地方より發展の餘地大なりとす、然るに東北地方は文明の利器として、當然浴せざる可からざる交通機關の便を受くることさへ甚だ薄く、從來此交通不備の關係東北發展の進路を妨害したること幾干なるやを知らず、一般產業の振はざる、商業の旺かんならざる、亦人智の進步せざりしも或は多くの原因玆に存せざるなかりしかを疑ふ。然し充分ならずと雖も今は漸く交通の便を得たり、今や人の東西に往復する者日々多くして東北の人智亦進まんとす、產業を起す將に此時にあり、商業亦然り、然りと雖も事物は之のみを以て急に向上發展し得らる可きものに非ず、其發展も多くは其基礎を遠きに求む、其進步其原因昔日に起るを常とす、東北地方如何に發展せざる可からざるも、他地方人之を行ふに非ずして從來不進步の狀態を維持し來りたる東北地方人自から之を行はざる可からざる以上、遂に急激

の發展と、進歩とは得て望む可からざるなり、故に吾人は東北開發に方り皮相の見に陷ることなく、既に述べたるが如く、第一教育を奬勵して人智の程度を高からしめ、第二各種思想の養成を圖り、次て須要なる産業其他一般物質方面の改良を企てざる可からず。東北地方は此三者を合して始めて完全の開發振興を見むとするものなり。而して物質上に於ける改良を具體的に攻究せば多々ありと雖も、主として其改良を感ずる種類のものは、家屋構造の改良、農家副業の奬勵、一般産業の改良、奬勵、農業耕作方法の改良及怠惰惡慣習の匡正なり。

先づ幾多の物質改良の内家屋構造の改良に就て論究せん、東北地方に於ける家屋構造の現狀を改良せざる可からずと云ふ理由は、由來家屋構造の如きは吾人の生活上に直接大なる關係を有し、此の家屋構造の如何は不知不識の間吾人の性質氣風に大なる感化を與ふるものにして、其影響たる實に容易ならざるものに屬す。而して東北地方に於ける家屋構造の現狀は、寒氣强き北國として防寒の關係より、概ね窓小にして屋内は薄暗く、陰氣にして風通し惡しきを常とす。殊に冬期は吹き荒む寒風を恐れて、終日窓を閉鎖するが爲め太陽の光線入ること少なく、殆ど晝夜の區別無き生活を爲すもの尠なからざる狀態なり。此生活狀態は不知不識の間、東北人を感化して、漸次怠惰性に誘導せんとす、之れ一缺點たらずんば非ず。人東北人を捕へて座食を好む人士なり、亦睡眠を貪

る國民なりと云ふも、地方人の座食の弊既に此時に於て養成せられ、睡眠を好む弊も亦此時に養成せらる何ぞ夏季に至りたればとて忽ち好む所の慣習を抛棄することを得べき、故に東北振興策の一として、不完全なる現在家屋を漸次改造せざる可からざるなり。

更に云はんとするは農家の副業にして東北地方の冬季は殆ど戸外に於て何等の作業をも執る能はず、冬季極寒の期は屋内に籠城し、穴居の姿と云ふて差支なし、家屋の構造不完全なるより起る弊の如きも、概ね此穴居時代に於て萠芽し、而して家屋の構造假りに之を改良したりとするも、其穴居の季節に於て何等か地方人に爲す可きの業務を與ふるに非ざれば、何等爲すなきに慣れたる地方人は手を拱して再び座食を學ぶか、或は博奕の如き惡しき遊戯に耽けらざるを得ず。夫故東北地方に於ける家屋構造の改造と相俟て、寒國人に對する特殊の副業を授けざる可からざるは東北振興策の急務なり。農業の副産として蠶業の如きは極めて有力なるものなりと雖も、之れ畢竟春夏の間に於ける業務なるを以て、冬季に於ける副業とは亦自から其關係を別にし、東北人の如き永き冬季を有する國民に對しては、適當なる何等かの職業を與へざる可からず。此副産業の奬勵は獨り東北人の爲のみに非ず、即ち東北の振興如何は我國家産業の盛衰に至大の關係を有するものなればなり。故に吾人は今後此問題に對し我國福利に關係深きものとして愼重の攻究を爲さざ

る可からざるなり。

東北振興策として最後に攻究す可き問題は、東北地方農業の改良と、怠惰性の匡正なりとす、先づ第一に之が有力なる改良方法として、怠惰に馴れたる東北地方人に對し、他地方より善良なる農民を移住せしむること是なり、而し他地方の勤勉にして善良なる農民を移住せしむるに就ては個人的移住に非ずして團體移住を行はざる可からず。亦其移住民を配するにも適當なる場所を選び其居を定めしめ、彼等移住民の爲す進歩したる農作方法と、勤勉の風とを怠惰癖ある東北農民に學ぶ所あらしめざる可からず、去れば直接地方人に其範を示すに於ては、如何に研究的智識に乏しき東北人と雖も、其の實際行ふ所の結果に相顧みて、他の善良とする新良風を學ばざる可からず此方法は東北振興の一策として既に識者の間に攻究唱導せられつゝある所に係り、先年疏水工事を施行したる宮城縣品井沼の新開水田の一部にも、此團體的移住を行へたるものなり。其の結果に就ては未だ確と徵す可きものなきも、豫定の好成績を收め得たる可しと信ず。而して今尚殆ど眠れるに等しき狀態にある東北農民に對し、汎く此方法を行ふに於ては、東北振興に尠なからざる効果ある可きなり。今や如斯き方法に依り徐々に東北の位置を確立し置かんか、政治上、産業上、教育上其他凡ての方面に發達し、他日他地方と其進歩を相爭ふ場合に於ても、決して見

苦しき敗北をのみ採らざる可し、亦東北地方の發達、他地方に比肩すること能はざるが如く遲れたる以所は、維新當時未だ民情開けざりし時代に於て、世の大勢に乘ず可き一定の思想備はらざりしが爲め農業と云はず、産業と云はず、將た亦政治と云はず、教育と云はず各種の事業は其時既に他と伍することを得ざりしのみならず、自から其適歸する所を知らざりしなり。其際事の主動たる可き東地各藩の領主にして自己の領地人民の爲めに思ひを此福利、權力の增進に致したるもの尠なく、遂に久しきに渉り今日の慘狀を現出したるものなりと思惟せざるを得ず、故に今日に於ては東北人程舊領主に對し冷淡なるものなし、之れ亦他地方と其事情を異にし、地方的團結の中心を失ひ、今日東北人の團結的精神に乏しきも其原因或は茲に存するものあらん、然るに地方の進歩と云ひ、發展と云ふが如きは如何なる場合に於ても、地方的團結の精神に依らざる可からず。若し不幸にして此精神を沒了する者あらば、決して完全なる發達は遂げ得られ可きものに非ず、故に今後の東北人は産業其他に於て、團結的精神を養成し、他に敗を取らざるの覺悟を爲さざる可からず。之等は東北振興の一要素として最も須要の事項たるを失はざる可し。

第四節　地理的關係より來る缺點

我國に於て寒國と稱せらるる東北地方は、其民情に於て、其富に於て之を陵國たる關東以西地方に比し、今日尙多くの遜色あるを免れざるなり。然れども之れ勢地の關係多く其禍根を爲すものにして、東北地方徒らに廣き面積を有すると雖も、多くは山岳起伏して土地に洋々海の如き廣濶の餘裕ある地方少なく、加ふるに一體の地味劣惡にして、且寒氣凛烈冬期を長からしめて耕作常に理想の如くならず、之れ東北地方の自然的に蒙る地の不利の甚だしきものなり。更に東北地方は獨り此の耕作關係に於てのみならず、國產として重要なる諸鑛物の採掘に於て、漁業に於て、森林經營に於て、其他種々なる方面に亘り一として關東以西地方の如く、好成績を以て之が發達を示しつゝあるものなし。之れ決して過言に非ざるなり。人爲を以て如何とも爲す能はざる地勢地味の關係は既に如斯くなるに拘らず、東北地方は人爲的施設關係に於ても未だ多く發展の便宜を受け居らず、其實例の顯著なるものは鐵道並に港灣の設備に於て之を見る、東北地方に對する鐵道交通設備は、上野より靑森に至る二條の線路と、郡山より新潟に通ずる一線、新庄より酒田に至る一線其他二三小規模の線路あるに過ぎず。港灣の設備に至りては其必要の程度如何は姑く措き未だ何等設備したるものありと云ふを得ず。東北地方は從來土地劣惡にして農產業興らざるが爲め民力富まず、冬期長きが故に其民遂に怠惰に慣れ、加ふるに交通設備不完全なるが爲め社

會的刺激少なくして、漸次奮勵と努力の精神に缺乏を來しつゝあるは數々述べたるが如し、獨り其富と事業との關係に於てのみならず、東北地方は地方人知能の關係に於ても之を關東以西人に比し、今日尙其神經甚だ敏活ならず、其の思慮と努力の精神とに乏しく、而して今尙覺醒せざるが如きは、從來東北地方に對する諸設備、殊に交通機關の設備不充分にして、東北人の多くは常に遠く東京の如き都會に出づるの機會を失し、亦他國人の東北地方に入り込む者少なく、東北人の多くは他國人と接近往復するの機會と、便宜とを有すること稀有なりしを以て、荒き世上の空氣に接せざるが儘ま事物に攻究の眞意湧かず、其智能自然的に不敏活に陷りつゝあるは實際社會的刺激緩漫なるが爲めなり。而して此諸種の物質關係が東北人を益不敏活ならしめ、亦此不敏活が原因となり怠惰の如き惡慣習を作らしむるに至りたるものなり。更に怠惰性の關係が原因となり、東北人の最も著しく其影響を受くるものは、其精神的修養と、一般敎育の普及なり、之等は全く衣食足りて禮節を知るの古言に違はず、其地方民の敎育發達の程度は、其地方民の富力如何に依りて定まるものと云ふも差支非ざる可し、其富低きが故に東北人は他地方人に比し、其智識と、能力とに於ても劣るに至り、或は遂に永久他と併立する能はざるを憂慮するものなり。亦他に憂ふ可きの一は地方民擧つて其衣食を得るの道充分ならざるの結果、自然的に自己の身體を虛弱ならしめ、人

間として全く如何なる機會來ると雖も、他地方人と其優劣を相爭ひ打勝つ能はざるに至ることなきや、凡そ世に何物が劣等なりやといはゞ、身に一定の富なく、智識なく、事に對する努力なく、加ふるに身體の虚弱を以てする以上にに出づるもの非ざる可し。而して東北人は如人に怠惰性なりと雖も、自己の衣食を給する程度の努力は之を有す。然れども、今日貧に成り切りたる地方人は殆ど手の出づる所を知らざる狀態なり、殊に東北地方に於ては貧國の常として金融頗る不圓滑を極め、農民多大の田畑山林を擁して資金を得る能はず。地方資產家は富を一手に收めて事實に投資を思ふもの尠なく、故に東北地方は日に益々地方農民の衰退を現はしつゝある狀態なり。

第五節　東北先輩者の思想

東北地方人は之を他地方人と比較し、其富に於て、識見能力の程度に於て、一般的には劣れりと雖も之を個人的に他と比較するに於ては特殊の富者と、識見一世に高き人才とに乏しからず、而して之等現社會に於て優秀なる特殊人才を算へ來れば政治家、學者、實業家、教育家其他凡ゆる方面に於て一通り其人物を有す、而かも之等多くの人物を出したる東北地方は、其指導と、感化と、後援とに依り優に永き睡眠より覺醒し、亦永き苦境より脫するに難からざる可きに、東北地方の現狀

然らざるは何ぞや、現に東北地方は多數の政治家を有し、實業家を有し、學者、教育家を有すると雖も、之等東北出身の人物として社會より認識せられつゝあるの士は、例へ其出生地を東北にくを東北人と認ひるを得ず。其理由に就ては今茲に說明する迄でもなく、彼等の或者は長閥に往有すると雖も、其現に採りつつある彼等の心掛と、其行動に於ては、遺憾ながら、吾人は彼等の多き、或者は薩派に投じ、斯くして尙彼等は自己立身の關係、其因を爲し他人より目せられて、彼は東北人なりと云はるゝを內心尠なからず恐怖す、彼等の居常其心事を證明して餘あり。彼等多くの人才の內年に一回なりとも鄉里に歸省し、親しく祖先の墓前に其靈を吊ひ、或は鄉人を指導撫育せんとする者の如きは果して幾人かある、數ひ來れば十中一人も無きの慘狀なり。之れ卽ち彼等は社會に其地位を得るに方り、東北人たるを恥とするの劣情に外ならず。然し彼等如何に生國たる東北を呪咀せんとするも、一度生國たるの緣由を結びたる事情は、人爲を以て茲に如何とも爲す能はざる所たる可し。彼等如何に生地たる東北地方を嫌ひ亦其人を嫌はんとすと雖も、東北亦日本領土の一部たる以上、彼等にして日本人たることを辭せざる限り、到底自己內心の滿足は之を求むること能はざる可し。

亦惟ふに一般東北人も殘念ながら之れ等見易き彼少數者の心裏狀態を解すること能はず、自國產

の人間より常に侮辱以上の侮辱を蒙り之に甘ずるのみならず、精神上に於ても、將た物質上に於も何等一點自己に益する所なきに、唯だ彼等を產出したる外形上の關係のみを以て、之を無上の名譽と爲さんとするの傾向あるが如きは果して眞の沙汰なるや、之を察するに如斯き人物は、何れの地方人として活動する場合に於ても、其採る所の行動に一定の主義なく、其場合と相手者の如何に依りては、其行動を三、四にして耻ぢざるの輩なる可し、彼等今日の地位を得たるも畢竟此耻づ可き行動の賜たるに外ならざる可し、而して社會は假りに彼等を人才と認めたりと雖も、之れ決して人才にも亦人物にも非ず、彼等を產出せる東北地方は、寧ろ彼等を戴くを以て、毅然たる東北男子の耻辱と爲さざる可からず。吾人は切に警告す、今後世に出でんとする東北有爲の士は年の老若を問はず、其標準を彼等に取る可からざることを、今後東北人は大に覺醒し、其弊と短とを捨て努力自ら起り、奮鬪他を凌ぐに於ては、先輩彼等が如き何の要か之れあらん、況んや他派の私的壓迫、抑制、横暴、專姿の如き之れを意とせざるの覺悟と、勇氣と、敵愾心とを以て起たざる可からざるなり。東北人の今日進む可くして未だ進まざる、覺醒す可くして其永き眠より醒めざる、之れ一般東北人の精神狀態敏活を缺き他者の壓迫に依る苦境を感せず、亦不公平なる侮辱の耻を憤慨せざるの致す所たらずんば非ず、東北人の進步發展は此深大なる苦痛と、

忍ぶ能はざるの侮辱とを解し、自から覺醒する所非ずんば容易に期する能はざるなり。若し此意味に於て起つに非ずんば、幸に起ちしものありと雖も、徒らに現先輩の轍を踏むに過ぎざる可し、今後多く諸先輩を學びて起つものありと雖も、之れ唯だ東北其ものに益なきのみならず、國家道義維持の上より我日本民族の爲め益なきの類たらずんば非ざるなり。故に東北人にして世に出て、何等か事に貢献する所あらんとする者は、西に走り南に去りて一身の小成に甘んせず、非常なる努力心を以て其親に孝を盡すの覺悟を持し、萬難を排し先づ永き苦境より父母の地を救はざる可からざるなり。此偉大なる覺悟と、曇なき精神とあるを以て初めて全國家に有益なる人物たり得可きなり。

第六節　東北人の性癖

東北地方人中農民は勿論、其他一般社會に至る迄て其風概して質朴敦厚なるは事實なり。然るに其質朴の內に於ても、其事と、時と、場合とに依りては頑冥に他人に讓らざるの性癖となる事あり、亦東北人は何事に就いても他人と相親まざる自己は自己なりと云ふ一種の性癖を有し、之を良く云へば他人を便らざる獨立の精神と言ふを得べきも、之を惡しく云へば他人と融和せざる孤

立的の性癖を特有する人士なり。其極端なる結果として東北人は其郷里を同一にすると雖も、相共に之を助け合ふさへ好まざるの風ある人士なり。之を更に東北人の缺點惡癖として難ずれば、東北人は事を爲すの要旨たる郷黨團結と云ふが如き觀念思慮に乏しく、其實例として現に同一東北出身たるのみならず、更に其郷里をも同一たらしむる先輩の士にして、大體自郷後進の者を引立補育することを喜ばざるの風あり。亦成功者夫れ自身に於ても郷里を同一にする結果にや、却て他郷者と相親しみ、自郷者と相反目するの奇觀を演ずるを見る。政治家自から主義あるが爲め兄弟相離反し、實業家自から利害得失あるが爲め知友相反目すと云ふことあるも、遺憾ながら彼等に夫れ程深き主義主張あるを認容する能はず。彼等同郷相結合せざるは或は生活關係より來るものあらんも、多くは何等意味なく元來の性癖の致す所たらずんば非ざるなり。

尙更に批難すべき東北人の重大缺點は肉親の情に乏しき憾あること是なり。之れ卽ち東北人をして今日の不發達の狀態より脫する能はざらしむる一大原因たらずんば非ざるを思はしむ、然るに唯東北亦は東北人と云ふも其範圍廣く、維新以前の狀態を以て之を云はゞ仙臺藩、南部藩、津輕藩、米澤藩、秋田藩、相馬藩、會津藩と云ふが如きに依り其性癖を異ならしむるもの尠少ならず。從來東北地方は商工農業三者何れも共に振はず、極めて貧國に屬したるが爲め其生活の狀態

より、或は交通機關の設備整はざりし關係より、比較的人文開明の度薄く、果して夫れ等の影響に基くものたるか否か、其眞の原因に至りては之を解する能はざるも、東北人は元來骨肉間の情緒稍々疎にして、肉身の親・其子を思ふこと左程密ならず、其結果親として無意識に其子を酷使する傾向あるは稍々一般に通じたる弊害なりとす。東北地方の一般に敎育程度の高からざる所以も親子愛情密なるを缺るが原因となり、親は其子の將來に關係深き敎育のことに餘り意を留めざるに至り其子は寧ろ學校に通はしめんより、早く自己の手許に置き何等か仕事の手傳を爲さしめんとするもの多し。如斯き酷使の惡弊と雖も、無論親として我子を故意に酷使し虐待せんとするものに非ず。之れ人文の發達未だ充分ならずして完全に骨肉の情味を解する能はざるが爲めに起る自然の結果なり。然らば一度如斯く親の酷使に遭遇したるの子は果して如何なる心理狀態を惹起す可きか、未だ餘り其敎育程度の高からざる限り、曩に親の酷遇に逢着したる子は、後日親として子を持ちたる場合に、多くの場合に於て親の爲したる前弊に陷るは、其系統上亦止むを得ざる所たり、此弊害に對し東北人未だ氣付かざるが如くなるも、今日尙此弊風東北の野に充滿しつゝあるを如何せん、而して思想上多くの場合に於て此弊害東北人を誤らしめんとするものなり。東北人の怠情性も其遠因の幾部分は玆に在り。亦一種冷酷無情なる人間となる場合、或は不自然的

の人間となる場合も之が原因たること多し、而して今日尙東北地方發達の遲々たる、肉身相共に愈々親しみて其業を勵まざるが爲めなり、勿論發達せざる原因に付ては尙他に地理的關係、或は家屋建築の關係等種々存することは別に述べたるが如し、而し之等は尙人智を費すに易々たるとに屬するのみならず、之を精神的思想上の關係と比較せば枝葉の問題たり。東北人をして今一層敎育を進め、以て此精神的思想を改善せしむるは容易のことに非ず。東北人にして若し此情弊を一掃することを得て、自己の思想を高尙ならしめたるの時は、卽ち凡てに於て東北人成功の時期たること疑はざるなり。

第七節　自治團體と選擧

自治團體と選擧との關係素より東北地方特殊の問題に非ざるも、地方自治體の發達如何が、重要なる各種選擧、殊に衆議院議員の選擧成績に至大の關係を有せり。最も政治爭鬪激烈なる昨今、國民寰視、否列國寰視の下に、第三十五帝國議會解散後の總選擧執行せられたり。而して當時行はれたる選擧狀態何れも吾人の意想外に出づるもの多く、或は自治逆轉の端を開かんとするあり、或は憲政の一大危機を思はしむるものなきに非ず、此際に處し特に自治團體と選擧との關係を論

ずる、必ずしも東北振興發展と無交渉の問題に非ざる可し。故に吾人は一般的に自治體と最近執行の選擧狀態とを論じて、聊か東北地方人の一顧を乞はんとするものなり。

今日我國の萬邦と其進運を共にするを得たるは、皆立憲政治の賜にして、而して此憲政の大本皆睿明なる　先帝陛下の御仁志に發露し給ひ、萬機の御統裁宜しきを得て初めて赫々たる御事績と御効果とを收められたるものに外ならず。然るに近時社會の風潮概ね輕薄に流れ、世は遂に滔々惡風潮漲るに至る、吾等臣民として恐懼措く能はず、或は、先帝陛下の御事績に副ふ能はざるなきやを憂虞するものなり。而して憲政中最も貴ばざる可からざるものは自治團體の完全なる發達と、夫を直接組織する吾人の善良なる行動なり。憲政運用の機關たる議院の組織分子を選定し、間接に議院の資格を善良ならしめ、上陛下の大御心に副へ奉り、皇國百年の計を誤らしめざるものは、議院の分子を選擧す可き自治團體組織の一員たる各人の責任なりと云はざる可からず、而して國家の源泉たる自治團體の完全なる發達如何は、卽ち其國憲政の進步發達を卜すべき唯一の標準たり。然るに我國の憲政、之を諸外國の憲政に相對比し、常に理想の如く進まざるは、之れ憲政の基礎たる可き自治團體の發達尙未だ完全ならざるが爲に外ならず。今や世上都鄙を通じ人心滔々惡風潮に襲はれ其行く所を知らざるに方り、我國の自治團體か遂に豫定の發達を遂げ得ざ

るなきやは深憂に價す、而して吾人は我憲政の爲め夙夜之が發達の全きを希望して止ざるものなり。然れども事物凡ての根源たる我一般人の德育、智育共に發達不十分にして、自治團體の行動も今日寧ろ退歩の傾向を示すものあり。例へば年を經るに隨ひ益々多くの經驗を積み、愈々成熟して豫期の効果を收め得べき衆議院議員選擧狀態の如き、近年却て退歩荒廢至らざるなきの風あり。之れ天下公衆の認むる所、如斯くして尙ほ且つ誰れか我憲政の基礎確立せり、自治發達の進境期して俟つ可しと云ふか、今日の場合我自治制は外形の一端だに見る可きものなしと云ふも不可なく、殊に大正四年行はれし衆議院議員選擧に際し、全國何れの地方たるを問はず、自治團體を組織する個人に於て、自から遺憾なく其弊の存する所と、近時世上に漲る惡風潮とを暴露したり。

更に少しく大正四年行はれし選擧の狀況を叙して以て前段自治狀態不良の一證たらしめんとす。近時人權を貴び、主義主張を重ずるの思想益々盛ならんとするの時に方り、之を空に考ふれば衆議院議員選擧は勿論、其他公の意味を有する各種の選擧に於て、選擧有權者は夫れ程無分別なるが如く思はれざるに、事吾人の豫想に反し、將に本年行はれし我衆議院議員選擧に方り親しく選

擧の狀態を觀るに、其一票を有する各人は國家より附與せられたる權利の神聖にして、之を擴充するに於ては國家將來の盛衰に關係する深き所以を憂慮せず、各人は此選擧權なるものを以て宛も國家に關係なく、當然自己の利益の爲めに享有す可き權利なるが如く思惟する狀態を呈したりき、玆に於てか吾人をして極端に有權者の意中を忖度せしむれば、卽ち選擧權なるものは自己に物質上の効果を收めんが爲め存するものなるを以て、其形式に於ては人を選擧する如くなるも、其實際に於ては必ず物質的利益關係を標準として選擧するものなりと云ふが如き、陋劣なる思想の支配を受けつゝあるものと云ふ可し。夫れ故多くの地方が多くの場合に於て之が被選擧者の何人にして政治家として適當なる人なるや、將た其資格人物に於て國家の選良たるに耻ぢざる者なるや否やを糺すことに意を止むること少なく、唯だ一途に物質上の何物かを多量に使用する者を選擧せんとするにありたり。而して物質を多く使用せんとする者に對しては、恰も路傍に網を張り其來るを待つの常態なりき。其陋劣何等耻るを知らざる者に至りては、一の選擧權を以て凡ゆる被選擧人より、限りなく取り得らるゝ丈けの多くの物質報酬を貪り、殆んど詐僞に等しき行爲を爲せしは吾人周知の事實なり。亦た一方被選擧人側に於ても近來漸次其人格を下落し來り、全く政治に志を有し眞に國家憲政の爲め、努力せんとする者の如きは宛然曉天の星の如く、多く

は議員に當選するを以て、專ら自己を飾るの具たり手段なりと思惟する名もなき地方の富豪、或は俄成金者、若しくは如斯き名譽ある肩書を得て專ら自己の利益の爲めに活動せんとする市井の一無賴亦は政治を手段とする商人なり、之等高尙ならざるの奴輩素より自己に一定の人望あるものに非ざるを以て、此戰は必ず黃金の力に依るに非ずんば、到底豫定の勝利を得られ可きものに非ざるを知り、依りて道義觀念に渴したる選擧人に臨むに、必ず夫れ相當の手段を選みて其弱點に乘せんとせり。而して彼等が先づ選擧人を繰縱する手段方法としては、其地方に於て有力なる縣會議員、或は郡會、市町村會議員、亦は元の市町村長、現市町村長を使役し、內密に、東西を馳驅せしむるにあり。被選擧者は素より其軍の總統卒者にして、主として自己は全戰を左右する戰の根據地に臨み、其の幕下に指揮命令するを常とし、其餘の地方に向ひては戰期中と雖も多く自から戰に臨まず、多少信用と責任ある者を以て其の主たる指揮者と爲し、區域を限り選擧一切の事を司らしむるを常とす。而して根據地以外の地方に使役する戰士なる者は、多く自己本來の部下に非ずして其地方の縣郡市町村會議員の如き有權者を以てし、之等の運動者に對しては皆一定の出資の下に其得票を請負はしむるを常態とするものなり。於茲乎卽ち神聖なる可き選擧をして甚だ不神聖なる因種を蒔かしむるの結果を生ずるものなりと云はざる可からず、抑も此縣郡市町

村會議員なるものは普通常識に富み、且品性比較的善良なるに拘はらず、事に依り、人に依り濟度し難きものなり、此選擧の如きも多くは彼等の特有事の如く思惟し彼等の或ものは必ず候補者より一定の運動費と稱する金圓を受取りながら、自己の利益をのみ圖らんとするに汲々として、候補者の勝敗如何の如きは全く第二の事と爲すものあり。故に彼等請負運動者の得票の如きは豫定より以下たるを常とす、而して請負運動者の下に馳驅する戶別運動者は、市町村長、或は市町村會議員の古手、市町村に於ける資產家、亦は慾深き有力者等にして、之等の直接運動者は各其市町村區內に於て其勢力に一定の領域ありと稱し、運動員として一定の金員を受領し、夫を選擧人に散布するものなり。而して事實散布する運動費なるものは、豫定して受取りたる半額にも充ざるを以て常とす。此故に有權者側に於ても投票の無記名なるを奇貨とし、一選擧權を以て殆ど多數候補者の投票に應ずることを耻と思考せず、其結果各候補者の得票豫定益々減少し迂患なる候補者は思はざる敗を取ること尠なからず。唯だ買收と云ふは同一なるも、運動者案外正直にして、自己の爲めに不當の利益を思ふことなく、相當の買收費を支出するに於ては、十中の八九迄て、頭初立てし得票豫定に違算を生ずるが如きこと甚だ尠なし、亦た或は全然買收等の陋劣手段は之を避けて行はず、候補者に心服する運動者の運動、或は其黨派の關係上主義綱領の爲めにする運動者の

運動の如きは、多額の費用を投ぜざるも運動の効果に於ては思はざる變動を來すことなし。

第八節　產馬奬勵

本邦馬匹の體格性能共に不良なるは既に知悉されたる事實にして、是れ帝國の國防上大なる缺陷なりとす。由來我國民は馬事思想に乏しく今尙軍事上馬匹の價値を解せざるもの多く、之を歐米諸國に比せば眞に霄壤月鼈の差あり。之れ卽ち本邦馬匹の文明列國に比し遜色ある所以にして我國產馬業不振の根源實に玆に存す。

抑も我國軍馬は明治廿七、八年の日淸戰役に於て其成績甚だ不良なるを示し、次て同卅七、八年の日露戰役起り馬匹の改良益々切なるを感ぜしめたり。此處に於て政府は新に馬政局を創設して產馬業の保護奬勵及馬事思想の普及に力を注ぎし結果、着々改良の實蹟を擧げつゝありと雖も、國防上滿足す可き程度に達するは果して何れの日なるか、前途尙茫漠の感を禁ずる能はず、今我國全師團に動員命令下らんか、少なくとも五十萬の馬匹を要す可し、現在馬匹總數は百五十餘萬頭なれば數字上の徵發は容易なる可きも、實質の如何を顧みば其所要頭數を充たすこと出來得べからざるなり、想ふて此に至らば國運の前途憂慮に堪へざるものあり。近世交通機關は日を逐ふ

て發達し、自動車飛行機等の軍事上に使用さるゝや、世界各國擧て軍馬の効力減少を唱へしに、今回の歐洲大戰は明に反對の現象を呈し、軍馬は倍々有効に使用され、將來一層能力の優りたる馬匹を要することを表示したり。玆に於て本邦馬匹の改良は軍事上須臾も忽にす可からざるなり、況や時勢の進運は一日も緩ふし能はざるに於てをや。

夫れ馬匹改良は我國焦眉の急務なる如斯し、然れども之を農業及商工業上より看るに、本邦今日の狀態を以てすれば甚だしく改良の必要を認めざる可し、我國農業は耕地整理其他の方法に依り改善せらるゝも、因より集約的經營にあるを以て歐米の其れと異なり、中等以下の馬匹を用ひて何等不便を感ぜざるなり。商工業に在りては近來人力に依る荷車の數著しく減少し、之に交ふるに運搬用馬車各地に增加し、之等馬匹の多くは體格不良にして僅に其用を便ずるに過ぎざれば、此種馬匹の改良は必要なりとす。然れども運搬業者の經濟狀態を推察するに、現在以上の馬匹を需要するや否や頗る疑問なり。加之自動車の運搬用に供せらるゝもの漸く增加せんとする傾向あり て、商工業より見るも馬匹改良の急を認めず、亦從來都會の上流社會は盛に馬車を御し、民間に於ける唯一の中等輕輓馬の賈客たりしが、是れ亦自働車の侵略を受け殆ど其跡を絕たんとす。然れ共殖產工業の發達に伴ひ實力ある馬匹の需要倍々增加し、交通機關の發達も決して馬匹の用途

を狹むること無きは歐米の實例に照し明なりとす。唯彼我財力に著しき懸隔ありて我國に於て直に彼を模倣し能はざるものあり。例之東北地方の二歳掫駒市場に最活氣を呈するは六十圓以下の劣等馬にして、九十圓以上の中等馬は振はざること夥多しく、完く軍馬購買官獨占の觀あり、以て民間購買力の一般を窺ふに足る可し。

翻て我國產馬地の現狀を調査するに、近年馬匹改良の蹟顯著なるに不拘市況不振、就中中等以上の馬匹は價格低廉なるのみならず、用途著しく減少して、空しく櫪槽の間に死するもの尠なしとせず、而も牧野の縮少並物價の騰貴は、血種の進化と相俟て追年生產費の昇騰を來し、斯業の經營甚だ困難なり。試みに驥北の稱ある岩手縣に於ける軍馬程度の生產費を記せば、種付より二歳掫駒までの飼糧費のみにて優に百三十五圓を要し、之に種付料及馬匹衛生費を加算するときは百四十五圓となる、一方岩手縣の二歳軍馬購買は平均百二十五圓にして、內二割は產馬組合費として出金し、實際生產者の手に入るは百圓位に過ぎず。此外母馬の使役及厩肥の利得あるも牝の產出不姙流產等の障害ありて、產馬經濟上生產者の苦痛洵に大なり。

馬匹改良は國防上緊要なりとせば帝國の國民たる產馬家誰か之を拒まん、誰か之を辭するものあらん。益々改良發達に努力す可きは言を要せず、只經濟上多大の損失ありとせば如何にして之を

償ふべき、到底產馬經濟を無視して馬匹の改良は行はれざるなり。而して實用的馬匹の生產並生產費の低廉を期するには牧野を離れて望む可からず。例へば岩手縣に於ける馬匹放牧地は約七萬町步にして、內民有地三萬町步なり。此民有地の放牧に依る收入は三萬圓を超へず、假に之を開墾若しくは造林するとせば年收入百萬圓を降らざる可し。故に土地の利用上より看るも產馬業は有利と認む可からず　若し產馬經濟にして現狀を脫することなく、有利なる土地利用策の實行方法確定なるものあるに於ては、地方は地方民の振興上前途望みなき產馬業の奬勵を廢止するの止むを得ざるに至るやも圖り知る可からざるなり、斯く觀じ來れば國力の消長に密接なる關係を有する產馬業の前途洵に寒心に堪へざるなり。

本邦馬匹の改良は民間の需要よりすれば恰も其必要なきものゝ如く、要は專ら軍馬にあるを以て政府は宜しく現時の產馬經濟に鑑み積極的方法に依り良馬の生產を保護奬勵せんことを切望するものなり。而して特に左記事項實施は產馬地の切望する所なり。

一、東北、北海道及九洲の一部を特定產馬地となし專ら保護奬勵を加ふること、

二、軍馬購買價格を增額すること、

三、公認競馬會に馬券の發行を公認すること、

四、公認競馬會に輓曳速歩競馬會を擧行すること、

五、公認競馬會に高齢馬を出走せしめざること、

産馬業は困難なる事業にして其興廢は主として風土の適否、經驗の有無に基き、多年の經驗と適當なる風土との二要素を具備するに非ざれば、成功す可からざることは識者の夙に言明する所なり、左れば何れの土地をも産馬地たらしめんとするは寧ろ無謀の企と云はざるを得ず。古來東北産馬の本邦に卓越して汎く天下に名聲を博する所以は、種類の優良なる固より其一因たるも、牧地廣大にして野草の供給豐富なると、放牧自由に行はるゝと、多年の經驗を有するとは實に其主因なり。北海道産馬業の進歩著しき亦此理に外ならず。將來と雖も東北、北海道及九洲の一部を除きて他に適當なる産馬地を求むること至難なりと信ず、故に政府は之等地方を特定産馬地とせられ、國土保安上差支なき限り、該地方に存する國有林野中、産馬經營上必要なる地積を開放使用せしめ、野草の保護上牧野の火入は適度に許可し、國有種牡馬の配置頭數を減少し可成的二歳購買を勵行し、全力を擧げて特定産馬地に保護奬勵を加ふれば斯業の改良發達期して待つ可く、軍馬は勿論民間一般の需要を供給するに些の懸念なきを信ず。

馬匹趣味の催起及馬事思想の普及を圖るには、競馬に如くものなきは世界各國の認むる所にして

蓋し馬匹改良上缺く可からざるものなり。泰西諸國に於ける競馬は頗る隆盛を極め馬匹改良上多大の効果あるに反し、本邦に於ける競馬は微々として振はず豫期の効果なきは遺憾とする所にして、其原因種々ある可しと雖も馬券發行の禁止其主因なりとす。競馬が馬匹改良に必要なるが如く馬券が競馬發達に缺く可からざるは洋の東西を問はず等しく唱ふる所なり。近くは馬券の發行禁止前後の本邦競馬は亦之を證明す、故に公認競馬會々員の資格を高め其會員に限り馬券の購買を公許せは、從前の弊害を再發することなく漸次盛況改良に稗益する所大なる可し。

乘用馬は産馬奬勵規程及競馬規程に依り二途の奬勵金を受け、且つ各馬の能力を比較檢定するの施設あるも、輓用馬は其能力を試驗す可き施設なく、尚重大輓馬は共進會に於て種類別審査の恩點に浴するも、輕輓馬は乘用馬と同一審査を受け常に不利の位置に在りて、外國に於けるが如く輕輓馬の特種奬勵法なきは遺憾に堪へず、依りて輕輓馬奬勵法の一法としと公認競馬會に、輓曳速歩競馬を擧行せしめば能力を檢定し併て新販路を開き得べし。現行競馬規程に依れば第九條に「年齢明け參歳以下の馬云々」及其第十條第二項に「前項新馬は明け八歳を超ゆることを得ず」と規定ある外年齢に關し何等制限する所なし、勿論馬匹にも蕃殖に最も適當なる年齢ありて、之を超ゆれば其成績不良なるは言を俟たず、故に公認競馬會に出走する馬匹の高齢を制限し、競馬の成

績優良なるものは時期を失することなく、蕃殖用に供せしめは馬匹改良に資する所尠なからざる可く、亦競走用馬匹の新陳代謝に依り、産馬家の受くる利益多大なる可し。

本邦に於て驥北の稱ある東北、北海道は本邦中最も天惠稀薄なる地方にして、産馬業の盛衰は直接地方輕濟に影響する所甚だ大なるを以て、産馬業の奬勵發展を切望して熄まざるものなり。

第二章　農家副業一班

第一節　副業の利益

今や農家經濟の現況を觀察するに一家の支出は益々增加して收入の增加之に伴はず爲に憂ふべき狀態を呈せる地方稀なりとせず、之が救濟策としては農業技術の改良、金融の疏通、各方面の共同經營等種々あるべきも、小面積より多額の收入を得べき穀作以外特種の集約的農業を行ひ、若くは適當の副業を營み、以て收益の增加を圖るは適切なる救濟策の一たらずんばあらず。

副業の農家に與ふる經濟上並に社會上の利益は種々あるべきも特に我國の農業上より見て其の主なる點は次の四項に約言するを得べし。

（一）　農業をして經濟的組織的の經營たらしむること

本邦に於ける農業の經營は一般に小規模にして田畑一町歩以下の耕作者は農家總數の七割を占む、從て其の耕作する耕地のみにては其生計を立つることを得ざる者尠からず、且年中に於ける勞働に繁閑の差著しく特に寒冷なる地方に於ては十一月より翌年三月に至る五箇月間は極めて閑散にして其の大部分は無爲に消費する有樣なり、されば本業の傍可成有利なる事業即ち副業

を行ひ作業を四季適當に配置し、勞力の過不足を除きて充分に之を利用し以て收益を增加せしむる方法を講ずるは單に農家經濟に餘裕あらしむる上に必要なるのみならず之に依りて往々凶作の爲に受くる損害を緩和することを得べし。

(二) 老幼婦女の微弱なる勞力をも利用して農家の收入を潤澤ならしむること

微弱なる老幼婦女の勞力は耕耘の力役に適せざるも、其の孜々として倦まざる周密なる注意と柔軟なる指頭の技巧とは農家副業中主要なる家庭の製作工藝に適せり、されば適當なる此の種副業を選擇經營することに依りて、經濟上の効果少かりし老幼婦女の勞力を活用し農家の經濟を潤澤ならしむるを得べし。

(三) 農家の金融を圓滑ならしむること

穀作のみを爲す農家に在りては其の收穫は春秋二期に限り其の他の時期に於ては毫も收入の道なし、されば自足經濟の域を脱せる現時の狀態に於て斯かる農家は往々にして金融涸渴の爲に困難することあるを免れず、然るに副業の多くは農家に時々現金收入の機會を與へて能く此の困難を救ふを得べし。

(四) 遊惰放逸の弊風を改めて勤勉力行の美風を進め併て自助の精神を涵養す

副業に依り閑時を利導し所謂小人閑居の弊を矯め勤勉力行の美風を醸成し延て獨立自助の精神を涵養するを得べし。

副業の健全なる發達は右に述べたる利益を現實すること其の好例少しとせざるも、又一面に於て利益多き副業が勃興したる結果副業と本業と其の位置轉倒し、農家は現金收入に重きを置き、次第に健實なるも勤勞多くして薄利なる本業を忘り質朴勤勉なる本來の美風を損じ奢侈安逸の風增長し却て農家經濟の窮乏を招けるが如き例も稀なりとせず。

第二節 副業奬勵上の注意

各種の副業が本業に與ふる利弊に就ては已に一班を敍したるも、今多少重複するを厭はず左に副業奬勵上の注意の主要なる點を概括的に述ぶべし。

(一) 無爲に過す勞力を利用し假令些少たりとも利益を得る道を圖ることを以て副業を行ふ主旨となし本業は飽く迄之を尊重すること

利益多き副業は自ら本業を粗略ならしむるに至るのみならず動もすれば奢侈の風を伴ふ、且有利なる事業程時に著しき振不振あるを免れず、而て其の一旦不振となる場合は往々にして缺損

を招き一方粗略に取扱はれたる本業の收益も少き上に平生浸染せる奢侈の風ありて爲に一家の經濟は重大なる打撃を蒙るに至る、實際利益多き副業が一時勃興せる結果其の地方の質朴なる美風を破り遂に救ふべからざる窮狀に陥らしめたるが如き事例は稀なりとせず、尙ほ有利なる事業は直に之に習ふ競爭者の續出するを覺悟せざるべからず、凡そ世間行ふに易くして而も常に有利なる事業あるの理なし、されば徒に眼前の利益を先とし新奇の副業を求め又は危險を帶びたる投機的の副業に指を染むるが如きことは農家として切に戒むべきことにして、徒然の餘座して食ふと假令僅少たりとも利益を得て有用に日を送るとの間に大なる徑庭あることに注目し、本業は飽く迄之を重んじて精勵し餘暇を惜んで副業に充つるが如き堅實なる方針を採るは農家一般の經濟上より見て最も策の得たるものなりとす。

(二) 副業の選擇に意を用ゐること

副業の選擇は土地氣候の狀況、勞力の需要、原料の供給、需要及販路、金融の便否等に依りて自ら一樣ならずと雖、大體に於て(い)本業を行ふに支障を及ぼさゝること、(ろ)作業容易にして老幼婦女子にても行ひ得ること、(は)原料容易に得られ且つ豊富なること、(に)販路廣くして且永遠に繼續する望あること、(ほ)資本を多く要せざること、(へ)資本の回收可成速なること

と等の條件を具備するものを以て最も農家に適當なりとす、是等の點に就ては豫め充分調査を遂げて後愼重に之を選擇すべく特に其の生産品の需要さして多からざる一つの副業を各地に於て競ふて行ふが如きことは避けざるべからず。

(三) 副業の奬勵と共に其の販賣の斡旋に盡力すること

生産品の販路の開拓斡旋は副業奬勵上緊要なることに屬す、凡そ一つの地方の生産品が市場に於て商品として取扱はれ有利に販賣せらるゝには品質相同じき其の生産品の相當の數量あるを要す、されば或種の副業を奬勵すると共に其の販路に付指導誘掖を加へ、更に進んでは産業組合の組織を利用して其の生産品の共同販賣、原料の共同購入を行はしむるが如き用意あるを要す。

(四) 副業の奬勵と同時に之に依りて新に得るに至れる利益は少くとも其の一部は貯蓄せしむること

副業が往々伴ふ所の奢侈の風は嚴に之を戒め、新に得るに至れる時々の現金收入の少くとも一部は之を貯蓄し、以て農家經濟の向上發展に資せざれば副業を行ふ效果は遂に認むるを得ざるに至るべし。

之を要するに副業は農家にとりて重要なる關係ありと雖、往々にして一利ありて而も百害を釀す因となることあり、此の點は豫め注意せざるへからず。

第三節　東北農家副業狀況

今茲に地方の狀況より觀察したる副業奬勵に關する意見を述ぶれば左の如し。

宮城縣　(一)養蠶　養蠶は米作に亞ぐ重要産物なるを以て普通農事に支障を來さゞる程度に於て極力奬勵せざる可からず。而して縣下蠶業の現況に照し將來施設す可き桑園の改善整理養蠶の普及、飼育法の改良、蠶病清毒の勵行、秋蠶の奬勵等なり。

(二)養鷄　種類、飼育法、販賣方法等の改良に付將來一層奬勵を加へざる可からず。

(三)養豚　養豚業奬勵の先決問題は飼料の供給及生産物の販路の二點にありと認むるを以て、先づ此の點に考慮を致し著々改良進歩の實績を擧げざる可からず。

(四)藁細工及竹細工　共に材料豐富、且農閑又は夜間等に行ふを得るを以て最も適切なる副業なり、然るに地方從來の狀態を見るに夜業の如きは至て不振の風あり、故に將來は秋冬の閑を利用し夜業をも行はしめ以て之を奬勵すると共に勤勞の美風を養成す可し、尙之等製品に對しては其の販路及共同販賣に付援助を與ふるを必要と認む。

(五)蘭栽培及蘭細工　將來有望の事業と認むるを以て之が栽培を奬勵し農閑に於て畳表、莫蓙等を製作せしめざる可からず。

(六)果樹栽培　縣下各地に栽培せる諸種の果樹に就て調査するに、柿、桃、葡萄等の成績佳良なるが如し、殊に柿は栽培容易なるを以て各農家に於て栽培するに恰適せるのみならず、其の需要益々增加すべきを以て、良種を選定し之が栽培を奬め尙桃、葡萄等に對しても相當奬勵を加ふるを要す。

(七)蔬菜栽培　本縣の蔬菜栽培は甚だ幼稚にして未だ縣内の需要を充たすに足らず、且つ品質良好ならざるを以て。今後は講習講話若は實地指導等に依り種類の改良と生産の增加を圖らざる可からず。

(八)木炭製造　曩に斯業奬勵の結果其の材料を濫伐し漸次材料の不足を來し遂に生産高の減少を見るに至れり、故に一方に製炭を奬勵すると共に一方に植林を爲さしめ材料と製炭との調和を圖り斯業の衰頽を防ぐの必要あり。

福島縣　副業の奬勵は地方農政上最も緊要なる事項たるは論を俟たずと雖、本縣に於ける農

村の如き金融の必迫せる地方にありては資金供給の途を講ずるを寧ろ副業奨勵の前提とせざるべからず、而して新たに之が奨勵に當りては其の地方に於ける原料生産の多寡を考査し若し原料供給の必要ありとすれば其の方法並に經濟的關係を調査し延て本業と副業との勞力關係に就て一層の精査を要すべし、就中農閑の際從業し能ふ副業を撰擇するは獨り勞力分配上に利あるのみならず農村の風紀改善の上に於ても其の効果不尠なり、從來の例に徴せば夏期農繁の時期に至つて生産を中止するの止むなきに至り其の需要に應ずる能はず爲めに取引上の顧客を失ふ如き憾なしとせず、仍て種類の撰擇と需給の關係とに就て特に精密なる調査を要すべし、又交通運搬の便否は直ちに地方産業の消長に關するは言を待たざる所なりと雖農家の副業に至りては最も適切なるものあり、然れども若し搬出輸送等に多額の費用を要し收支相償ふ能はざれば容易に奨勵する能はざるものあり故に交通機關の發達と運賃の低減に俟つべきもの尠しとせず、而して從來の副業に對しては當局者に於て或は生産物販路の斡旋を圖り或は産業組合の設立を促す等當業者の經濟及技術の改良進歩を企圖する所尠からずと雖、尚ほ其の經營の方法宜しきを得ず良もすれば本業と混同し爲に勞力の不足を訴ふるに至り或は生産過剰を見るに至る等常に所期に反し遂に農家經濟をして却て困窮に陷らしむる例を見たる狀態なれば、副業の奨勵は先づ其の經營方法を周知

せしむると共に敍上の缺陷を補ふ途を講究するを必要なりとす。

岩手縣 本縣耕地反別十三萬九千餘町歩、農家戸數八萬七千餘戸、一戸平均約一町六反歩に當り其耕地廣くして勞力資本の之に伴はざるものあり、且つ冬季農閑の期比較的永く加ふるに氣候稍々寒冷に失する爲め主要農作物の增收は之れを現今の生産より著しく多きを望むべからず、故に農村の繁榮農民經濟の圓滑を期せんには必ずや副業の奨勵に俟たざるべからず然れども本縣は面積廣く交通の便ありて其間自ら副業を選むべきに種類あり、故に局部地方の狀況に鑑み其の奨勵方針を取らざるべからず、之を要するに本縣の副業は勞力の分配上主要農作物と著しき衝突を來さゞるを主眼とすべし、是に於て養蠶の如きも夏秋蠶奨勵の必要を認むる所以なり、其の他の副業に於ても同樣の方針を取るを要す、同時に生産品はよく縣内の需用及輸出の狀況等を講究し、主として販路の斡旋を計り以て生産の過剰なからしめ、地方適切の種類を選ぶ時は副業自ら隆盛を期すを得べし。

青森縣 (一)藁細工　現今にては同業組合及産業組合等の檢査取締に依り粗製の弊も大に改まるに至れるも、將來は一層生産者側を指導して統一機關を設けしめ荒物檢査を勵行し一方共同販賣の風を馴致し製品の整一に依り聲價を高め且つ價格の平準を維持し生産者の利益を圖らんこ

とを要す。

(二)蠶業　從來農家は山桑の豊富なるに依頼し之を利用し來りしが山林狀態の變遷は漸次山桑の減退となり濫穫を許さゞるに至れり、今後は桑園の增植、夏秋蠶專用桑園の特設、飼育法の改良、殺蛹、乾繭生、產品の共同販賣等に付一層の奬勵を加へざる可からず。

(三)蘭業　本業は夙に奬勵を加へつゝある如きも遲々として進まず然れども今後一層奬勵を加へなは確實となるべきを信ず。

(四)養鷄　本業の農家副業として適切なるは敢て論なき所なるも本縣に於ては其の消長常なく未だ著しき發達を見ず、故に今後は努めて指導保護を念とし之に依りて得る收益は直に消費せずして之を善用する目的の組合を組織せしめ、一面種禽種卵の購買を幇助し、以て健全なる發達と此の普及を期せざる可からず。

(五)製炭　本業は其の普及一般的に非ざるも亦農家に於ける有利なる副業の一たるを認む。

(六)木通蔓細工　近年其の販路海外に拓け前途有望なるに至れり、且つ此の原料は各地山野に自生せるを以て生產費多きを要せざる利あり、將來益々販路の擴張に竭すと共に適切なる組合の設置を促し斯業の普及を圖らば其の健全なる發達を期し得べく認む。

(七)苹果栽培　苹果の產額は逐年激增しつゝあるも之に伴ふ病蟲害の發生蔓延も亦年と共に著しきを加へ來れり、故に之が驅除豫防に就ては間斷なく技術員を派遣し講習講話實地指導を爲さしめつゝある外、夙に同業者に協同事を爲さしむるの要を認め產業組合及同業組合の設立を奬勵し已に之等の成立を見るに至れり、今後は之等共同團體を督勵して生產品の改良と販路の擴張に一層の力を加へなば益々確實有利なる副業たるに至る可し。

(八)畜產　產馬及產牛に對しては縣當局に於て法律規則に依る他に、種畜の貸與、牝牛馬の檢査、產牛馬組合及糶市の監督、講習講話、人工牧草の普及等に依り益々其の發達を奬勵せんとしつつあり。

山形縣

(一)副業は十分之を奬勵をするを可とす、然れども縣下を通じて奬勵すべき同一種の副業甚だ少きを以て能く其の地方の狀況を察し適切なる副業を選びて之を奬勵するを要すべし。

(二)副業奬勵上　殊に困難を感ずるは懇篤なる販賣の斡旋者を得難き事なり、故に製作品は常に相當代價にて現金を以て賣却する機關卽販賣組合等を設くるを要す、然らずんば生產者は迅速に販賣し難く或は仲買等の爲に利益を壟斷せらるゝこと多し。

(三) 販路の搜索及販賣の斡旋は府縣農會等能く之に努め各農會互に氣脈を通じ販賣組合等の上に立ちて其の敏活なる活動を助くるを要すべし。

(四) 副業を行ふに高價なる器具を要するものは其の購入費に對し相當の補助を爲すを要すべし殊に一部優良なる原料を用ゐ精巧なる製品を得べき大器具の如きは一部落等共同して備付しめ交互に之を使用せしむるを要すべし。

(五) 輸出用藁細工品の如きは可成多くの勞力を加へ精巧なるものたらしむるを可とす、粗製品にして殆ど原料の輸出を目的とするが如きものは一時其の代價の收得に依り潤澤を感ずべしと雖、農作上堆肥原料を失ふことゝなるを以て必然に金肥の使用を增加し之を差引すれば地方を益すること尠少に過ぎざることゝなるべし。

(六) 生產品販賣の代價は之を浪費する傾あるを以て組合等を作り其の一部を貯蓄せしむるを要す。

秋田縣 縣當局に於ても各種副業の奬勵は刻下の必要たるを認め、其の本業たる農事の發達を計る上に於て必要の關係ある牛馬の飼養の如き、或は老幼婦女の容易になし得べき養蠶、養鷄の如き、又は材料豐富なる藁工品の製作の如きを極力督勵しつゝある如く、尙各地の狀況に依り

製炭、果樹、栽培、木綿織物其他適當なる事項を勸奬せする方針を採りつゝあり。

第四節 經濟狀態良好なる農村

副業の爲め最近農家經濟狀態の良好なる農村の概要を記すれば左の如し。

宮城縣 副業の爲め農家經濟狀態の特に良好なる農村として記述すべき事項なしと雖、養蠶各町村共一般に農家の經濟狀態に及ぼす利益最も多大なり。

福島縣 安達郡上川崎村

本村は安達郡の北部にありて古來より製紙を以て知らる、土地丘陵多く其の面積九百九町耕地四百九十四町にして住民の多くは農を以て生業とし冬期農閑中製紙業に從事し、其產額八萬八千六百圓、一戸平均二百三十三圓餘の多きに達す、而して住民の他に轉任、轉業するもの更に無し年々人口增加し貯蓄日に增し今や一戸平均百四十圓を算するに至り納稅の如き隣接町村に比し滯納者著しく減少せり數年を出でずして遂に其弊習を絕つに至るべし、又一村の住民隣保相助の精神に富み信用購買組合を組織し農家の金融に、貯蓄に、製紙原料購入に一層の便益を與へ又た勞働の美風を保持しよく冬期嚴寒の際と雖斯業に從事するを以て農家勞力の分配に著しき

繁閑なく之を隣接町村に比して良好なり、休業日數に於ても亦一箇年十一日の差ありて自ら一村の風紀肅整し醇朴の風を成に至れり、而して近來各地農村にありて最も經濟的位置の困難を來たしつゝある中農の經濟狀態を考査するに、一戸平均一箇年の收入九百二十八圓に對し支出八百七十四圓にして收益五十四圓あるに比し隣接町村に在りては收入六百四十五圓に對し六百二十五圓の支出をなし其收益僅かに二十圓を越す、而して兩者の生計程度に於ては差なきも製紙業經營の結果年々多少餘裕あるを見るべし、去明治三十八年の凶歉の際隣接町村の農家は著しき打擊を被り忽ち窮境に沈淪せしと雖獨り本村にありては其の影響を受くること少かりき、之を以てするも本村に於ける製紙業の經營は如何に農家經濟上に良好なる結果を及ぼせるかを知るに難からざるべし。

岩手縣 縣下下閉伊郡小川村、氣仙郡世田米村は養蠶業に加ふるに產馬業を、又東磐井郡猿澤村は養蠶を主たる副業となし共に經濟狀況稍々良好に赴けり、其他には未だ副業の爲め特に良好と認むるに足るものなし。

青森縣 各種副業の普及に依り其生產物を販賣したる隨時收入の一部を貯蓄する貯蓄組合或は會の勃興を促かし亦諸般の費を償ひ由て以て大に融通を援け一般農家の經濟狀態にして良好となりしものあるも、未だ殊に特記すべき程度に達したる佳良なる農村を認めず

山形縣 副業の盛なる地方は細農等に金融の便を與ふるを以て浪費（比較的）せざるに於ては經濟狀態の上進を來すべき筈なるも、副業の利益は原料代を控除すれば僅少なるに拘はらず金錢受授の際に消費するもの多きが爲めか特に多くの貯蓄を爲せるが如き著しき例多からず、其中稍々著しきものは左の如し

（一） 西村山郡谷地町、溝延村及西里村

是等の町村は縣下主要の副業なる草履表の主產地にして何れも一萬圓以上二萬圓以下の產出あり、而して創始既に舊きを以て今は男女老幼の少閑を有する者は皆之に從事し子守は子を負つ老婦は留守居を爲しつゝ之に從事し一戸當の產額は十二圓より多きは五十圓を超、されば細民は之が爲に生活の困難を感ずること少し、而して細民生活の狀況を見るに金二十五錢（一分）を以て藁を買ひ之より草履表を製造し其の製作品を仲買人に賣り其の價を以て藁と米とを買ひ生活と生業とを繼續する狀況なり、然れども昨今仲買の連合に依り買潰しを爲すの傾あり。

（二） 西田川郡京田村

同村大字豐田に於ては部落の申合に依り夜業の藁細工品を以て貯蓄を爲さしむ、而して其貯

金は各戸に於て行ふのみならず男女年雇、勞働者及小學生徒（高等科）に及び永年之を繼續し來れるを以て年雇男等は解傭歸家の際一廉の資金を得る者あり、其他の者も相當の貯蓄を爲し其額に依りて低利資金の融通及生活日用品共同購入の信用程度を定め居り、而して該部落の成績殊に佳良なるは藁細工品を鶴岡町所在莊内實業義會と特約し比較的高價を以て量の多少に拘はらず安全に販賣し得るに依ること多し。

（三）東田川郡山添村

本村は十三の部落より成る内上山添、中田、常盤木、西荒屋、板井川、西片屋、東荒屋、桂荒屋の八部落に於ては明治三十三年頃より藁沓の製作盛に行れ、現に總戸數の三割は之に從ひ總産額十五萬足、此價額約五千四百圓に及び、從業者一戸千百足、此價額三十八圓五十錢に當れり、之が製作は主に十二月より翌年三月に至る農閑の間に行はれ大概近隣の婦女數人相會し談笑の間に互に競爭して從事するを常とす、製作の方法簡單にして十二三歳の女子は已に之を作るを得べく熟練者は一日に六足を編み此の代金二十一錢中原料藁二束代三錢二厘を差引きて十七錢八厘の手間賃を收むべく且つ之が製作の際生ずる屑藁は以て夕餉の飯汁を煮るに充分なりと云ふ、同地方の俗歌に曰く「藁百(束)買つて藁沓編めば米一俵(五斗)買つた外藁百(束)買へる」

と以て斯業收支の一班を覗ふべく簡易素朴なる農村生活の眞趣を髣髴するに足らん（山形縣農會副業調査書より抄錄）

（四）東田川郡餘目村

東田川郡餘目村大字廿六木は戸數僅に百戸に過ぎざる一小部落なるが古來「ジンベ」(冬期草鞋の爪先に附け指の寒氣を除ぐ一種の藁細工)の産出を以て名あり、六七歳以下の小兒と中等以上の家族の若干が之を製作せざる外は殆んど之れが製作に從事し毎年の産額三十萬足此の價額千五百圓に達し主に北海道へ輸出す、此の製作たる頗る容易の業にして其の功程は一に熟練に依り男女長幼に依りて大差なく熟練者は一日に藁三把此の代二錢四厘の原料を以て「ジンベ」三十足此の代十五錢の生産を爲を得べし、斯く一日の勞に酬ゆる所は些少なりと雖從業期間は主に冬季其他の農閑時にして一家孤燈を圍みて談笑の間に之に從ひ又は子守の如きは平常背子を呼びつゝ製作に從事する等間時を利用し得るを以て手間賃以外に自ら一種勞働の趣味を覺へしめ本部落の人とし云へば一人として此の編み方を知らざるものなく競ふて寸暇を之が製作に從ふ風あり、而して茲に特に記載すべきは同部落内に日掛貯金講を設けたるもの二あることなり、一は本間孫右衞門に依り集金せられ、一は遠田善三郎に依りて集金せられ一人一日の掛高は最

多十七錢より最少三錢位迄ありて一日の掛金四五圓に達するとありと云ふ、本部落の「ジンベ」の生産たる其の價額の上より云へば微細なるも之が爲に細民の經濟を裨補すること少からず殊に勤勞の美風の普及せること及貯蓄の方法迄立ち居ることは以て副業奬勵上の模範と爲すを得べし（同上）

（五）其他

青年團員申合せ或夜を限りて副業に從事し青年團活動の資に供し、或は養鷄組合を作りて卵の共同販賣或は貯蓄を爲し、或は主家に於て常傭人に藁を無代にて與へ夜間藁細工を爲さしめ之を貯蓄せしむるもの等あり、要するに或種の副業を永年繼續施行し農家行事の一部となるが如きに至れば地方を利すること尠少ならざるを認む。

秋田縣　藁工品は專ら小農の餘業或は留守居の老幼婦女子に依てせられ其の得たる賃金は直に以て朝夕糊口の助けとなるものなれば下級農家の生活に及ぼす關係少からず、左に收支計算の一例を示す。

午前午後約三時間の休業時間を利用して藁工品に依り得べき所得

一、實子繩		一、草鞋	
二本合實子繩	二十錢	草鞋	十足
此代		此代	十五錢
此原料代	一錢	此原料代	五錢
差引益	九錢	差引益	十錢

次に副業の爲に良好なる農村として特記すべき者なきも、本縣北秋田郡大葛村は戸數二百十八戸田反別百〇五町歩を有する山間の僻地にして田畑の收穫少く耕作のみに依りて生活すること困難なるが故に古來より養蠶を以て唯一の副業とし殆んど每戸之を飼育し現今に於ては年收繭三百五十石餘此價額一萬二千餘圓に達し農家收入の三分の一以上を占むに至れり。

第三章　東北地方の金融事情

第一節　各地方の金融事情

東北地方に於ける金融の圓滑ならざるは夙に識者の認識する所に屬す、而して其原因に至りては事情種々錯綜し、之を二三に限定する能はざる可きも、吾人の見を以てすれば、最近に於ける賣買地價標準の低きに失すること其最大有力なる原因に非ざるなきかを思考せしむるものなり。現行租稅の標準たる公定地價は、明治の始期之を決定したるものにして、其狀況の異なりたる地方に對しても餘り懸隔せる差等を設けず、之が結果として當時は賣買地價に於ても各地方何れも多くの差異存せざりしと云ふも不可なかりしなり。然るに世の開明進歩と共に各地自ら特殊の事情發生し、一躍顯著なる發達進歩を爲せる地方あり、亦依然舊態を脱し得ざる地方あり、東北地方の如きは今日尙ほ其發達進歩の狀遲々として振はざるものなり、之が爲め依然土地の價値進まざるものある亦た止むを得ざるものと云ふ可し、今東北地方と其他の地方とに於ける田地賣買地價の標準を比較するに、其差の懸絶するに驚かざるを得ず、東北地方中に於ても福島、宮城兩縣地方の如きは之が賣買地價の標準最も低く、一反歩三百圓前後に過ぎざる狀態なり、其他の地方と

雖も山形、岩手兩縣地方を最高として尙且つ一反歩三百圓を超過すること多からず。翻て東北以外に於ける地方の賣買地價の標準を見るに、其最高なるものは九州地方にして一反歩六百圓以上の高價を保つ、中國、四國地方之に次ぎ、關東地方に於てすら其價格一反歩四百五十圓乃至五百圓前後にあり。各地方に於ける賣買地價の標準既に如斯し、而して何れの地方に於ても特殊商工業地を除きたるものゝ外資金調達の根本基礎は大體之等土地にありと云ふも不可なし、然るに租稅の標準たる公定地價が賣買地價の如此懸隔を生ぜるに拘らず、依然舊來の儘に放任せらるゝ結果、更に賣買地價の標準を不當に低からしめ、尠なからず其餘害を受けつゝある也。其最も重大なる關係は東北地方の金融に及ぼす損害なり。即ち東北地方の如きは主農地方として資金調達唯一の根本基礎は主として土地にあり、而して亦土地賣買地價の高低如何は地方の對物信用に直接絶大の關係を有し、賣買地價の低きが爲めに受くる損害の尠少に非ざることは言を俟たずして明かなり。次に東北地方人の金融關係に於て受けつゝある不利は、中央當路者卽ち大藏省當局、日本銀行、勸業、興業兩銀行當事者の冷淡なる措置にあり、大藏省當局者の東北地方に對して取る所の措置に就ては姑く之を措き、日本銀行の取る所の方針、勸業、興業銀行等の實行する所の實跡、東北地方に冷淡なること歷々たるものあり、例へば日本銀行は普通商業關係の金融を主とす

可きものなるに、東北地方に對して其の爲す所、徒に土地を擔保として放資を爲すに止まり、自己の主管事項たる商工業關係を以て投資したるもの甚だ尠なし、然るに日本銀行が土地を擔保として資金を投ずると雖も、其擔保の條件甚だ嚴重に失し、今日東北地方に於て日本銀行の要求する擔保條件に適合する優良土地殆ど缺乏せりと云ふも過言に非ざる可し。日本銀行の東北地方に對し、十年一日の如く其業務の擴張したるものなきは畢竟之が爲めなり。而して近來東北地方の金融殊に必迫に陷り甚だしき不圓滑を極むること多し、而して其直接の原因に至りても商工業の不振其他二三にして止まざる可きも、其主たる原因關係は東北地方の如き農業地方として、前數年不作永續し、昨年偶々豐作に浴したりと雖も忽ち米價の暴落に遭遇し、其收入に於て殆ど不作の年と大差なき狀態を呈しつゝあるに拘はらず、單に豐作の故を以て租稅關係は之を別とするも、各種の保險、債務の支拂其他種々なる從來の關係にて、東北地方より流出する資金尠なからざるものあるは、何人も之を否認せざる所なる可し。然るに此反對に東北地方に對し、中央より輸入せらるゝ資金に於ては、依然何等多きを加ふるものなきを以て、東北地方に愈々資金缺乏し、金融の圓滑を缺ぐは理の當然なりと云はざる可からず。今日日本、勸業銀行等に之が擔保として提供す可き土地に缺乏を告げつゝある東北地方は、地方資金の圓滑を圖る爲め何等か別に適當の方

策を講せざる可からざるなり。頃者在仙臺中村第七十七銀行支配人、近藤宮城商業銀行支配人其他在仙臺銀行家の一團主動者となり、日本銀行をして直接東北地方の商工業關係品に投資せしめんが爲め、東北樞要の地に之が擔保品受入の倉庫を設置經營せしめんと劃策しつゝあり、此起劃に對し奥羽六縣同盟銀行團の後援しつゝあるは近來出色の事として、東北地方人の最も注目に値するものたる可し、而して之が成功如何は或は東北地方の商工業速進に多大の影響を及ぼす可しと信ぜらる。

第二節　福島地方金融事情

福島は舊板倉藩の城市にして、明治四十年四月市制を施行してより以來一層の發賑を來せり。市街の廣袤東西十八町南北二十九町面積〇方里五八、戸數五千八百六十七、人口三萬五千八百六十九を有し、四衢八街井然として縣廳諸官衙學校病院等の設け一として具はらざるなし。而して地國道の衝に當り且つ奥羽本線其西端を通過し、南線亦此に分岐して山形、秋田に通じ、著名なる飯坂溫泉を二里許の所に控へ、且つ養蠶生糸羽二重の產地たる川俣、保原、梁川、長岡、桑折の諸町を數里の內に控ふるが爲め生絲羽二重等の聚散極めて頻繁なり。市內に生絲商の設立に係る

合資會社共同生絲荷造所なるものあり、這は海外輸出品として横濱に搬出する生絲に對し其品位等級の檢査を爲し、羊頭狗肉の誹を受けざる樣注意し置かずんば信を外人に博し難しとて此荷造所を特設し、嚴密の檢査を逐げて一々等級を分ち之れに商標を付するを例とするものなり。幸に外人の信用する所となり此商標の有無に因りて價格の高低、賣行の遲速を異にする傾向を生ずるに至りしを以て、縣内の製絲は勿論奥羽地方並に茨木、栃木兩縣下の製絲も亦此檢査を受くることゝなり、近來更に一段の盛況を加ふるに至れり。

市内には福島誠壹會社、福島運送會社、福島倉庫會社、丸ィ倉庫會社、蠶絲米穀取引所、共同生絲荷造所、福島羽二重會社、玉絲改良會社、其他福島電燈、福島瓦斯、福島染物、福島酒造、福島麥酒販賣、福島印刷所等の諸會社あり。而して又金融機關としては日本銀行、安田銀行の兩支店福島縣農工銀行、第百七銀行、福島商業銀行、福島銀行、岩代銀行等あり、其他福島信託株式會社を首とし東福信託、實業信託、東海信託等の諸株式會社あり。

今其地元銀行中に就き最も舊き歴史と、信用とを有せる株式會社第百七銀行の一斑を擧ぐれば。

同銀行は同市大町三十二番地に在り、今其起源を繹ぬれば、明治七年中現任吉野取締役の先々代なる吉野周太郎氏が吉野組を組織し、福島縣爲替方擔當の旁ら生絲資金を供給し、各需要地へ荷

爲替を取扱ひたるを以て創業と爲す。次て明治九年九月國立銀行條例の改正と爲り、各地に國立銀行勃興し、同市にも亦夙に第六國立銀行設立せられしと雖も、生絲聚散の頻繁なる福島に在りては固り以て其要求を滿たすに足らず。加之當時吉野組は其業務に於て既に銀行と同一の事を營みつゝありしを以て、吉野氏は太宰文藏(先代)角田林兵衛、内池三十郎(現任取締役頭取)等の諸氏と相謀り、大藏省の諭旨に基き商業機關に供すべき銀行の設立を企畫し、遂に資本金拾萬圓を以て第百七國立銀行を創立せり、是れを同銀行の前身とす。而して明治十三年に資本金貳拾五萬圓を增して參拾五萬圓とし、同二十二年に貳拾五萬圓に減資し、同三十年二月國立銀行營業滿期前特別處分法に準據し其營業を繼承し、株式組織に變更すると共に資本金を現今の壹百萬圓と爲し、堅實を旨とし地方金融の利便を圖りしを以て信用益々厚きを加へ、今日の隆運を見るに至れるものに外ならず。之を要するに同銀行は吉野組に胚胎して國立銀行に生育し、更に現今の株式會社に成長したるものなり。

現今は資本金壹百萬圓の全額拂込を了するに至り、且つ積立金四拾八萬五千圓を有し、縣下金融の要地たる保原、二本松、川俣、白河、郡山、棚倉、飯坂、坂下、若松、小高、喜多方の十一箇所に支店を置き、更に全國各樞要の地には六百有餘の取引先銀行を有し、當務者は壹意專念金融の

圓滑を企圖して地方繁榮策に資せんことを期せり。重要物產たる生絲羽二重其他農工商業の資金を供給して其改良發達に資し、廣く各需要地への荷爲替等其便利を計圖しつゝあるを以て、現時に於ては獨り縣下の中樞機關たるのみならず、自然重きを東北財界に置かるゝに至り、世上の信用日に厚く、基礎亦牢乎拔く可からざるに至れり。今試に大正三年下半季末の預金高を擧ぐれば其額三百五萬餘圓の多きに上り、隨て現貸高は四百九拾參萬餘圓を算せり。而して三十年八月以來引續き一般に勤儉貯蓄の美風を普及せんとの趣旨により貯蓄銀行業を兼營し、客年下半季末の預金は亦八拾壹萬餘圓の多きに達し居れり、而して同銀行は一面囑託を受けて縣金庫の事務を取扱ひ居れり。

第三節　山形縣農工金融事情

山形縣に於ける農工上に關する金融狀況を知らんとするには、勢ひ山形縣兩羽農工銀行の山形縣下に於ける農工上に關する金融の大體狀況を述べざる可からず、明治四十二三年頃までは同行營業の目的及び性質等普く縣下一般了知するもの少く、加ふるに東西田川及飽海の三郡は交通不便なるが爲め、資金の供給を仰ぐもの甚だ僅少なるの實況なるを以て、同行は明治四十四年四月鶴

岡町に支店を設けたるに僅かに、一年間に於て五十萬圓の貸出をなすに至れり。

其當時迄の金融は今日の如く逼迫せざるを以て、六分五厘乃至五分七、八厘の利付債券を資金の必要ある毎に容易に發行し得られたりしが、爾來金融は逼迫に逼迫を重ね、金利昂騰の結果如何にせん資金充實上債券の發行を感ずるも、利鞘の關係上遺憾ながら發行するを得ざる實況なるに、一面又追々同行營業の目的及性質を了解し資金の融通を乞ふもの頗る多きも、以上述ぶる如く資金缺乏の爲め其希望に應ずる事能はざるの結果、直接間接を問はず農工業の發達を阻害する事甚しきものあり。

最近司法省登記の統計年報に依れば、山形縣下小農工者の不動產抵當貸借金は、總計一千八百九十二萬三千餘圓にて、其內同行より直接及代理貸をなしたる金額は僅かに二百七十五萬四千餘圓に過ぎず、其他は多く年一割以上の高利貸借なり、而して又昨今の如く米價下落打續くに於ては農家は年次衰頽に傾くの形勢明かなるを以て、之が救濟上益々同行資金の豐富を切望するものなり

更に山形農工銀行最近取引の狀況を見るに、今大正三年下半期末の同行現在貸付金の數字を顯はせば、有抵當にて同行直接貸は年賦貸にて百九十一萬六千五百餘圓、定期貸にて三十三萬五千四百餘圓、勸業銀行代理貸にて年賦貸は五十萬二千百餘圓、定期貸は九百三十餘圓にして合計金二

百七十五萬四千餘圓なり。又無抵當貸にて同行直接年賦貸は十萬〇三百餘圓、定期貸二十三萬七千餘圓、勸業銀行年賦貸は三十萬三千六百餘圓にして、同行及代理貸付總額は三百三十九萬五千百五十一圓なり。

以上述ぶるが如く貸付資金充實の必要を感ずるも今日の金融上預金の吸收を講じ、又農工債券を發行するも勸業銀行發行の割增債券發行に妨げられ其目的を達する能はざるを以て、僅かに從來貸付金の返金及勸業銀行代理貸資金を以て營業を繼續するの悲境に立至れり。是れ獨り同行のみならず、聞く處に依れば全國各農工銀行も亦大同小異の有樣なるを以て、當局者も亦大に之れが救濟の途を講ぜらるゝは目下の急務なりと信ず。

第四節　米澤地方金融事情

米澤地方殊に米澤市は由來絹織物を以て唯一の營業となすもの多し、故に經濟狀態も亦織物の浮沈盛衰に因て伸縮消長せり。數年來織物の外に進步狀態にあるものは酒造業を第一とし、果實の培養も亦大に發達せんとしつゝあり、然れども前者は漸く其額四拾萬圓、後者は僅に數萬圓に過ぎず、郡村に接近せし方面には古來養蠶に從事するものあるも是等は微少にして殆ど言ふに足

らず、之を要するに金融界は一に絹織物を以て中心となすものと云ふも不可なかる可し。茲に織物取引の狀況一斑を概陳せんに、米澤織は四百餘戶の製造家の產出するものにして、各自之を十數戶の買繼商に委托し、或は賣却して其代金として期日拂の約束手形を授受するを慣例となす、當地の銀行業者の割引するものは多くは此の絹織物買繼商の約束手形なり。

織物の總額產は數年來四百萬圓を上下せり、其販路先は全國に普及すと雖も全產額の七分は京阪商人の手に依て關西、九州等西南地方に散布せらる。近年漸く東京趣味の織物製造家續出せしを以て東京方面にも販路漸進の傾向あり、而して織物の原料生絲は福島縣七分を占め、其他は縣內及秋田方面より購入するもの多し、購入時季としては七月以降三ヶ月間位の處多數を占むるを以て金融界も此期節は例年繁忙を來せり。

如上の實況なれば商業關係は大阪、京都を重なる取引先として名古屋地方之に次ぎ、隨て銀行爲替取組の類も亦京阪方面に於て常に密接なり、又福島縣、秋田縣は原料生絲購入の關係上相應に取引頻繁なり。

米澤織は大體冬物類にして夏期使用のもの至て輕微なるを免れず、例年七月以降十二月頃迄は取引多忙にして、一月より六月迄は閑靜を常とす、故に金融狀態も亦下半期に於て繁忙緊縮にして

上半期は閑散緩和を例とす。

金利は近年上半期は日歩貳錢八厘より參錢强を示し、下半期は參錢より參錢貳厘を昇降せり。米澤市の金融機關の重なるものは安田銀行支店、兩羽銀行支店、百廿五銀行、商業貯蓄銀行、米澤義社、元商社等にして、熱心に商工業家の便宜を企圖し、東北地方中にては金利も常に低位に在り。此の四銀行の二會社の外銀行業貸金業者等多數あるも內部は複雜にして詳知する能はず、然れども取扱金額は少額の模樣なり、四銀行二會社最近の取扱概數を擧れず預金總額百六十萬圓强、貸出總額貳百四拾萬圓弱なり。

米澤現時の金融界を東京附近及京坂地方に比すれば金融機關未だ完全の域に達せず、金利常に高率を免れざるは甚だ遺憾なるも、獨り米澤市のみならず東北地方一般に有價證劵を所有するもの尠く、資產家と稱するものと雖ども多くは不動產と地方株を有するに止まる、故に日本銀行に於て見返擔保品を擴張し地方株式に及ぼすの雅量あるにあらざれば、近き將來に於て低利運用を望む能はざるなり。

第五節　弘前地方金融事情

青森縣弘前地方に於ける金融狀態は概して緊縮の傾向を示せり、而して預金は四月國稅移送の爲め減退せし以來容易に常態に復せず、貸出は肥料資金の需要等に依り漸次累進しつゝあるを以て金融は當分小康を得難かる可しと想像せらる。蓋し米穀は弘前地方の主要物產にして、前年に於ける凶作の餘弊未だ癒へざるに加へ、昨今の米價は依然軟弱容易に恢復の曙光を見出す能はず、農家は持米賣惜みを爲し、且つ各地共在米數量潤澤なるを以て輸出殆ど杜塞し、一方前年の低資借入は漸次返濟の期に達しつゝあるを以て、新規資金の需要多からざるに拘はらず、資金集散は例年と正反對の現象を呈せるは止むを得ざる所なる可し。而して縣下に於ける狀況も弘前地方に比し大なる差違を認め得ざるも、北海道各地第一期鰊況の不況は青森縣藁工品輸出に、亦支那外交問題の影響にては林檎、馬鈴薯、鮑、鰚等の貿易品に多大の打擊を蒙り、商況依然として閑散一般景氣引立たざるの觀あり。叙上商況順境に至らざれば容易に金融逼迫の域を脫せざる可しと信ず。

終

（附　錄）

奥羽六縣銀行營業一班

東北地方に於ける銀行は奥羽六縣同盟銀行と、同盟外の銀行と、特殊銀行たる縣農工銀行との三者なり。而して縣農工銀行は別個の立場にありて獨特の營業を爲し、其他の銀行は同盟銀行たると、同盟外の銀行たるとを問はず、其領域を同一にする一般經濟界に向て活動するものなり。而して茲に奥羽六縣同盟銀行と云ふは、東北地方に於ける金融關係の改良發達を圖らんが爲めに組織せられた團體なり。更に東北地方の金融狀況を明確にせんが爲め、最近に於ける之等諸銀行の營業收態を左に錄す。

附錄　奥羽六縣銀行營業一班

第一表　奥羽六縣同盟銀行營業狀態
第二表　奥羽六縣同盟外銀行營業狀態
第三表　奥羽六縣普通銀行及農工銀行營業年季別比較表
第四表　奥羽六縣同盟銀行成績比較表

奥羽六縣同盟

(第一表ノ一)

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座預金	小口當座貯金及ビ貯蓄運金	諸預リ金
第一區 福島縣	株式會社第百七△*銀行	1,000,000	1,000,000	465,000	1,114,648	462,013	1,900,712	391,913
	同福島商業△*銀行	1,000,000	612,500	153,700	571,980	93,203	518,947	345,367
	同磐城銀行	750,000	375,005	155,000	290,363	203,231	81,318	105,238
	同會津銀行	600,000	375,000	93,200	266,939	53,136	223,546	46,574
	同平△*銀行	500,000	215,000	108,500	160,034	102,305	176,367	22,575
	同二本松銀行	500,000	175,000	73,100	307,128	79,189	126,237	55,178
	同須賀川*銀行	250,000	145,000	58,800	74,996	17,849	161,491	15,692
	同第百一銀行	220,000	110,000	87,300	109,201	132,896	0	9,242
	同本宮銀行	200,000	125,000	48,000	147,089	38,688	58,529	20,050
	同三春銀行	180,000	90,000	35,000	75,009	53,129	0	5,373
	同白河商業*銀行	150,000	120,000	63,670	49,550	58,920	58,516	1,226
	合名會社須釜銀行	100,000	100,000	114,000	0	0	0	317,223
	同太宰銀行	100,000	100,000	70,000	126,723	168,457	85,690	14,004
	株式會社福島銀行	100,000	100,000	46,000	147,585	204,490	92,327	49,416
	同正製銀行	100,000	100,000	20,500	34,768	44,782	0	17,985
	合資會社瀬谷銀行	100,000	100,000	12,000	0	0	0	110,324
	株式會社相馬銀行	100,000	62,500	24,650	103,103	2,129	49,856	14,492
	同田島銀行	100,000	60,000	27,750	31,410	9,124	55,115	1,433
	合計	6,050,000	3,965,000	1,656,170	3,610,526	1,726,271	3,588,651	1,543,305
第二區 宮城縣	株式會社宮城△商業銀行	2,000,000	875,000	227,000	1,079,394	641,054	1,049,596	220,804
	同七十七△×銀行	750,000	650,000	60,200	726,995	489,267	978,275	388,060
	同東北實業銀行	500,000	300,000	20,000	598,092	182,830	535,524	41,951
	同村田*銀行	500,000	125,000	35,000	76,245	115,734	85,699	87,760
	合資會社松良銀行	120,000	120,000	86,500	129,743	53,831	48,269	16,392
	株式會社白石商業銀行	100,000	100,000	93,000	143,360	195,482	38,180	36,440
	同白石銀行	100,000	100,000	18,500	115,005	18,603	83,154	63,435
	同宮城貯蓄銀行	100,000	70,000	31,000	190,330	56,254	953,801	31,530
	合計	4,170,000	2,340,000	571,200	3,059,164	1,733,055	3,772,498	886,372

銀行營業狀態

(大正三年十二月三十一日現在)

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座預金貸越	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ケ金	金銀有高	當合利益配割
657,000	30,000	1,069,934	305,315	1,333,596	3,293,158	199,000	94,872	年壹割
365,000	68,000	516,447	488,348	358,856	1,297,636	0	60,665	年六分
54,000	7,500	53,857	329,829	484,949	361,151	250	60,597	年壹割
0	0	65,262	262,342	341,430	239,595	4,611	56,736	年八分
0	0	61,470	362,105	161,077	177,503	0	56,981	年壹割
43,000	60,000	49,340	139,361	255,507	492,783	0	13,882	年壹割
7,000	42,600	46,847	185,907	202,238	81,119	4,000	15,687	年八分
14,000	0	20,800	117,552	12,824	261,470	5,250	18,144	年壹割
0	0	20,880	61,527	111,221	231,509	250	11,945	年壹割
0	0	31,618	85,317	61,975	65,070	950	9,135	年八分八厘
0	0	42,849	205,628	35,666	70,293	250	16,217	年八分
0	0	44,327	193,212	83,729	129,127	7,250	10,771	年壹割
80,000	0	34,752	48,478	69,641	467,938	10,411	18,173	年五分
172,950	92,630	73,937	108,657	92,223	555,752	0	6,163	年五分
81,500	42,498	32,886	34,580	233,187	49,430	250	1,675	
0	0	7,105	154,764	10,467	32,712	22,635	6,537	年六分
62,500	5,000	11,508	166,898	0	123,869	3,750	19,782	年壹割
35,750	0	6,597	63,316	124,418	15,259	0	10,685	年七分
1,572,700	348,228	2,190,416	3,413,136	3,972,914	7,945,434	258,857	488,827	
0	303,000	432,174	673,752	548,778	2,599,083	22,350	139,346	年九分
307,972	0	645,571	1,333,799	726,566	756,375	0	217,017	年參分五厘
30,000	0	166,482	628,370	383,178	312,975	64,367	106,660	年八分七厘
0	0	30,505	288,204	68,921	135,192	250	12,561	年八分
43,000	0	61,683	302,280	71,022	28,225	250	29,638	年八分
0	0	197,492	144,001	49,773	185,443	10,250	14,843	年壹割
30,000	30,000	5,729	80,745	119,979	212,358	38,876	11,294	年九分
75,000	0	447,179	465,084	159,554	273,121	7,450	36,990	年六分
485,972	333,000	1,986,815	3,916,235	2,127,771	4,502,772	143,793	568,354	

(第一表ノ二)

奥羽六縣同盟

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座預金	小口當座預金及ビ貯蓄預金	諸預り金
第三區 山形縣	株式會社 兩羽銀行	1,000,000	1,000,000	335,000	2,084,377	1,014,976	486,048	593,315
	同 山形商業銀行	500,000	275,000	4,000	102,041	42,247	145,574	4,328
	同 羽前長崎銀行	200,000	200,000	40,000	253,832	67,902	67,265	23,519
	合資會社 三浦銀行	200,000	200,000	200,000	246,103	105,710	156,559	900
	株式會社 天童銀行	200,000	175,000	26,800	157,928	79,146	26,878	41,415
	同 橋岡銀行	200,000	125,000	60,600	181,343	24,983	114,627	3,604
	同 上山銀行	200,000	125,000	23,500	48,227	22,657	0	29.502
	同 鶴岡銀行	180,000	135,000	49,400	140,379	64,635	267,286	91,614
	同 新庄銀行	150,000	112,500	31,700	61,927	50,379	0	1,799
	同 大石田銀行	150,000	75,000	23,650	146,650	183,417	0	0
	同 尾花澤商業銀行	100,000	50,000	9,500	22,308	61,137	0	0
	合資會社 東根銀行	50,000	50,000	35,900	68,159	29,910	30,805	5,543
	合計	3,130,000	2,522,500	836,050	3,513,280	1,747,099	1,298,042	795,539
第四區 岩手縣	株式會社 盛岡銀行	1,500,000	1,020,000	221,000	968,983	1,625,912	418,899	355,763
	同 岩手銀行	1,000,000	625,000	100,000	260,717	52,286	355,562	49,285
	同 第九十銀行	600,000	420,000	164,000	179,306	97,905	232,490	13,692
	同 第八十八銀行	500,000	418,563	17,900	43,322	35,220	11,824	74,667
	同 花卷銀行	200,000	200,000	87,218	105,086	43,235	124,488	9,844
	同 氣仙銀行	100,000	100,000	68,500	116,580	35,624	45,750	14,583
	同 水澤銀行	100,000	75,000	32,600	62,473	20,881	27,328	5,463
	同 水澤貯蓄銀行	100,000	75,000	28,000	141,786	28,748	86,663	39,241
	同 前澤銀行	50,000	49,904	12,200	4,883	8,696	2,152	5,291
	合計	4,150,000	2,983,467	731,418	1,883,136	1,948,507	1,305,156	567,831
第五區 青森縣	株式會社 第五十九銀行	1,500,000	1,250,000	432,000	1,603,599	1,389,869	382,068	340,067
	同 弘前銀行	700,000	525,000	98,000	332,889	244,293	32.450	0
	同 八戸商業銀行	200,000	140,000	107,500	237,525	75,702	83,465	22'854
	同 上北銀行	150,000	150,000	62,200	77,544	18,563	72,885	16,278
	同 青森銀行	100,000	100,000	23,000	77,624	37,682	79,933	1,305
	同 三戸銀行	50,000	50,000	33,100	54,826	99,958	0	7,245
	合名會社 高谷銀行	50,000	50,000	72,500	149,147	27,087	43,292	12,844
	合計	2,750,000	2,265,000	828,300	2,533,154	1,893,154	694,093	400,593

銀行營業狀態

(大正三年十二月三十一日現在)

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座貸越	預金	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ケ金	金銀有高	利益配當割合
0	46,600	506,481	1,754,659	1,031,551	1,851,433	41,250	287,787		年壹割
0	0	44,823	317,515	145,094	61,653	350	31,290		年五分貳厘
20,000	0	22,470	339,424	168,801	37,790	35,250	48,541		年六分
65,000	0	291,842	429,679	164,011	49,501	250	66,900		年五分
25,000	0	21,579	159,906	110,081	218,365	250	23,643		年七分貳厘
156,000	0	22,920	359,270	223,562	40,719	250	33,807		年八分
0	0	36,535	145,999	30,063	0	10,644	8,237		年六分四厘
16,872	0	81,572	458,272	112,889	61,561	263	46,644		年八分强
77,000	0	20,488	251,957	28,190	40,293	250	6,907		年六分强
53,400	0	4,567	297,037	98,135	80,796	3,550	11,763		年七分
27,500	0	8,565	127,890	25,154	6,032	250	6,202		年八分
37,000	0	8,413	224,289	17,270	8,678	0	9,968		年壹割
477,772	46,600	1,070,255	4,865,897	2,154,801	2,456,821	92,556	581,636		
0	200,000	834,447	1,051,216	1,388,547	1,285,748	11,232	149,949		年壹割
0	0	96,895	315,372	757,514	214,076	24,500	79,980		年九分
40,000	0	69,419	213,250	665,444	108,829	32,010	56,441		年壹割
201,276	0	2,884	256,032	32,469	488,867	350	5,703		○
44,710	0	19,743	152,261	334,290	125,402	0	18,831		年壹割
0	15,000	23,252	156,184	91,957	68,412	20,250	16,235		年壹割
25,000	0	15,527	67,703	105,227	50,488	250	11,298		年壹割
44,500	0	53,591	136,990	198,302	71,508	250	14,081		年壹割
5,400	0	2,663	76,010	12,052	0	250	809		○
360,886	215,000	1,091,421	2,425,018	3,585,775	2,413,330	89,092	383,327		
794,000	0	943,181	2,085,420	1,120,377	1,587,569	222,738	312,142		年一割壹分
48,000	0	107,078	625,560	361,387	118,882	5,064	45,490		年壹割
48,000	0	61,202	201,868	182,863	267,324	250	25,985		年壹割
42,700	0	38,511	261,385	78,182	31,281	23,500	13,010		年六分
37,300	0	72,607	120,626	73,451	56,755	15,500	7,064		年七分
0	0	7,973	116,429	67,173	23,864	250	13,874		年壹割
23,000	0	44,894	216,278	62,304	49,147	250	10,922		年壹割貳分
993,000	0	1,275,446	3,637,566	1,945,742	2,134,822	267,052	428,487		

(第一表ノ三)

奥羽六縣同盟

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座預金	小口當座預金及ビ貯蓄預金	諸預リ金
第六區 秋田縣	株式會社 秋田銀行*	1,000,000	900,000	246,000	1,096,960	516,100	1,278,455	338,543
	同 第四十八銀行△×	1,000,000	475,000	78,000	498,797	536,339	661,338	109,461
	同 平鹿銀行△	500,000	275,000	122,000	315,277	74,437	57,771	83,177
	合名會社 澤木銀行	100,000	100,000	60,000	87,206	71,470	106,336	3,953
	株式會社 大曲銀行	75,000	75,000	81,000	23,467	13,911	30,416	32,654
	同 雄勝銀行	50,000	50,000	33,000	53,310	23,091	24,971	28,511
	合名會社 能代銀行	50,000	50,000	70,500	17,251	99,822	62,989	19,160
	合資會社 湯澤銀行	50,000	50,000	51,610	153,152	82,308	135,300	11,916
	株式會社 增田銀行	50,000	50,000	13,000	92,571	87,714	0	9,086
	合名會社 植田銀行	50,000	50,500	10,800	39,672	926	9,718	7,006
	同 五業銀行△	25,000	25,000	25,500	352,527	181,267	217,183	32,083
	合計	2,950,000	2,100,000	791,410	2,730,190	1,687,385	2,584,468	675,550
總計		23,200,000	16,175,967	5,414,548	17,329,450	10,755,471	13,242,908	4,869,190

備考

(一) 同盟銀行ノ支店出張所ニシテ聯帶爲替ニ區ニ二店第五區ニ一店第六區ニ六店通シアルニ依リ特ニ本表ニ計上ヤス

(二) 同盟銀行ニシテ同盟區域外ニ支店ヲ置キ支店ノ諸預金諸貸出金等ハ其本店銀行計

(三) 金員ハ圓以上ヲ計算セリ

(四) ×印ハ同盟區域外ニ支店ヲ有スル銀行ナ

(五) △印ハ特ニ聯帶爲替ニ加盟セル支店出張

(六) *印ハ貯蓄兼營業銀行ナリ

銀行營業狀態

(大正三年十二月三十一日現在)

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座預金貸越	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ケ金	金銀有高	當期利益配當割合
350,000	137,000	1,147,814	240,561	1,374,604	1,513,184	173,582	351,613	年九分
0	0	602,981	357,964	561,753	610,766	113,037	113,776	年八分
65,000	0	32,034	275,955	267,725	442,219	250	27,296	年壹割
0	0	69,810	114,499	116,359	41,458	22,840	42,141	○
10,000	47,000	31,056	49,246	111,790	121,887	250	19,547	年壹割貳分
56,600	5,000	16,908	61,051	58,591	134,919	10,485	9,342	年壹割
6,000	0	28,143	166,413	77,785	27,991	1,252	16,035	年壹割
137,005	0	45,104	209,222	257,242	150,226	1,267	19,312	年壹割
0	75,500	8,389	76,288	13,724	224,074	11	8,763	年八分
52,364	0	13,780	72,593	75,223	7,995	0	3,889	○
121,500	0	49,095	376,896	259,835	450,294	1,351	26,050	年貳割六分弱
828,464	264,500	2,045,164	2,003,688	3,174,631	3,725,049	324,325	637,764	
4,718,794	1,207,328	9,656,517	20,261,540	16,901,634	23,178,238	1,175,675	3,058,398	

加盟セルモノ第一區ニ十三店第二區ニ五店第三テ二十七店アレトモ其計算ハ皆ナ本店ニ併算シ

テ營業スルモノ第二區ニ一店三區ニ一店アリ其算ヨリ之ヲ除却セリ

リ

所ヲ有スル銀行ナリ

銀行營業狀態

（大正三年十二月三十一日現在）

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座預金貸越	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ケ金	金銀有高	當期利益配割合
0	0	16,860	147,784	4,310	42,880	8,700	12,545	年六分四厘
79,500	21,000	9,045	142,705	34,464	251,711	0	3,229	年七分强
0	0	0	155,864	0	10,944	0	24,381	年六分
3,000	0	0	122,680	0	24,960	6	7,931	○
3,000	0	1,449	84,877	5,749	10,456	1,392	4,365	年四分五厘强
1,410	0	15,469	39,574	0	37,470	0	8,510	年壹割
5,800	0	9,050	113,331	0	0	0	7,324	年八分
15,440	0	4,865	72,395	0	10,233	0	4,677	年四分八厘
0	0	0	110,905	0	26,450	0	10,090	年壹割
0	0	21,759	153.112	0	13,559	0	13,253	○
0	0	0	72,395	0	0	4,095	305	年二分八厘
0	0	90	21,591	0	0	0	7,061	年八分
0	0	4,866	107,259	0	0	0	6,711	
0	0	0	315,125	211,316	626,868	0	26,789	
0	0	0	243,930	57,758	346,726	0	29,281	
0	0	0	23,440	99,145	184,418	0	13,894	
0	0	0	26,585	16,955	100,218	0	17,520	
108,150	21,000	83,403	1,954,005	429,697	1,686,893	14,193	197,836	
0	0	106,795	78,211	13,903	65,215	239,500	6,265	年九分
0	0	0	55,455	332,306	701,138	0	0	
0	0	106,795	133,666	346,209	766,353	239,500	6,265	

奥羽六縣同盟外

（第二表ノ一）

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座預金	小口當座預金及ビ貯蓄預金	諸預リ金
第一區 福島縣	株式會社白河實業銀行	650,000	162,500	8,500	21,894	71,401	6,174	2,674
	同岩代銀行	500,000	125,000	6,000	119,395	34,839	38,835	1,768
	同磐城實業銀行	300,000	105,000	2,215	0	0	0	86,352
	同原町商業銀行	200,000	83,000	8,100	0	0	0	63,479
	同新山貯蓄銀行	130,000	55,000	500	0	0	0	44,911
	合資會社共立銀行	100,000	25,000	8,265	0	0	0	67,851
	株式會社浪江銀行	60,000	45,000	11,500	0	0	0	57,824
	同小高商業銀行	50,000	25,000	8,000	0	0	0	33,084
	同磐東銀行	30,000	30,000	15,070	0	0	0	91,453
	合資會社原町銀行	30,000	30,000	17,550	0	0	0	163,070
	棚倉共同株式會社	15,000	15,000	7,057	51,963	0	0	0
	株式會社川俣永續社	15,000	15,000	6,700	9,836	945	0	0
	同小高銀行	60,000	50,730	20,700	0	0	0	45,449
	同安田銀行福島支店	0	0	0	451,146	145,389	342,274	138,611
	同安田銀行郡山支店	0	0	0	153,096	79,135	143,857	68,947
	同安田銀行若松支店	0	0	0	372,307	39,074	378,430	28,155
	同安田銀行中村支店	0	0	0	156,760	6,761	161,799	9,335
	合計	2,140,000	766,230	120,157	1,336,397	377,544	1,071,369	902,963
第二區 宮城縣	株式會社商業貯金銀行	100,000	47,500	12,500	0	0	445,017	0
	同安田銀行仙臺支店	0	0	0	723,243	117,267	405,619	31,047
	合計	100,000	47,500	12,500	723,243	117,268	850,636	31,047

(第二表ノ二)

奥羽六縣同盟外

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座預金	小口當座預金及ビ貯蓄預金	諸預り金
第三區 山形縣	株式會社左澤銀行	500,000	237,500	20,650	0	0	0	290,022
	同今井商業銀行	500,000	125,000	5,000	66,365	21,500	7,084	18,257
	同米澤商業貯金銀行	500,000	125,000	1,000	30,942	27,598	48,273	0
	同第百廿五銀行	500,000	350,000	10,100	106,563	165,803	98,988	2,582
	同六十七銀行	250,000	250,000	177,500	308,257	347,170	358,530	41,555
	同莊內銀行	200,000	120,000	15,078	18,198	58,150	60,257	0
	同羽陽貯蓄銀行	200,000	72,500	35,000	0	0	1,938,317	0
	同東銀行	160,000	160,000	116,000	47,098	125,720	148,051	53,971
	同荒砥銀行	100,000	100,000	44,000	47,621	82,808	14,314	0
	同長井銀行	100,000	100,000	36,000	88,940	25,117	0	0
	同米澤義社	100,000	100,000	52,840	15,252	85,773	0	0
	同山形銀行	100,000	50,000	24,000	140,159	35,263	0	79,382
	合資會社山邊銀行	100,000	100,000	2,100	134,469	12,857	21,760	90,129
	同本立銀行	72,000	72,000	360,400	169,440	628,676	0	0
	元商合資會社	50,000	50,000	100,000	155,838	51,889	0	0
	丹泉株式會社	36,000	36,000	9,500	8,299	11,177	0	0
	沖郷株式會社	30,000	30,000	9,329	15,030	625	0	0
	株式會社急濟社	20,000	20,000	33,300	0	0	0	0
	同安田銀行米澤支店	0	0	0	174,118	21,090	109,178	10,259
	同安田銀行酒田支店	0	0	0	85,935	10,972	77,421	34,227
	合計	3,518,000	2,098,000	1,051,797	1,612,924	1,712,188	2,882,173	620,384
第四區 岩手縣	株式會社墨澤尻銀行	500,000	125,000	3,600	17,140	1,191	13,926	6,360
	同宮古銀行	500,000	125,000	1,300	22,827	40,485	51,117	3,495
	同盛銀行	200,000	86,000	8,500	60,583	9,204	5,767	58,571
	同一關貯蓄銀行	30,000	28,040	4,225	0	42	4,423	527
	同安田銀行盛岡支店	0	0	0	371,912	6,422	155,281	9,461
	合計	1,230,000	364,040	17,625	472,462	57,433	230,514	78,413

銀行營業狀態

(大正三年十二月三十一日現在)

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座預金貸越	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ヶ金	金銀有高	利益配當割合
17,000	0	100,743	419,940	0	25,865	4,000	14,317	年八分
3,000	0	63,699	123,721	46,449	4,520	200	11,731	年五分
12,670	0	15,467	55,932	28,760	148,454	0	4,917	年八分
172,500	0	97,625	543,948	18,648	193,163	0	36,019	年四分
210,000	0	375,163	535,611	164,887	514,116	0	122,945	年八分
50,700	0	28,519	206,261	46 238	36,967	0	9,518	年五分五厘
0	0	497,170	0	0	53,056	1,475,199	5,213	年壹割
77,401	0	71,419	460,151	30,910	142,563	5,738	18,388	年五分
31,192	0	60,855	194,244	19,653	38,260	0	5,089	年八分
28,000	0	26,047	240,620	15,890	727	0	8,846	年九分
0	0	40,426	209,065	0	5,289	0	553	年壹割
31,500	0	8,780	260,605	59,746	12,524	59	16,530	年壹割
85,525	0	59,610	263,469	73,759	14,578	212	19,681	年四分
0	0	21,300	1,220,422	0	0	0	16,699	年貳割
21,100	0	0	384,144	0	9,465	0	1,737	年四割
15,500	0	0	79,016	0	0	0	4,201	年壹割貳分
10,865	0	100	60,319	0	0	0	5,249	年壹割
45,815	0	11,330	89,019	0	0	0	249	年壹割
0	0	0	20,533	103,503	179,593	0	28,918	
0	0	0	92,593	118,600	126,542	0	8,341	
812,768	0	1,478,253	5,459,613	727,043	1,505,682	1,485,408	339,141	
0	0	12,120	41,405	50,947	60,919	6,241	7,430	年八分
0	0	15,300	,44,136	49,889	12,586	104,219	20,711	年七分貳厘
0	16,300	22,206	75,443	75,319	73,093	6	11,267	年五分
1,510	0	12,988	9,460	1,000	8,890	0	89	
0	0	0	105,204	302,779	164,166	0	48,652	
1,510	16,300	62,614	275,648	479,934	319,654	110,466	88,149	

(第二表ノ三)

奥羽六縣同盟外

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座貯金	小口當座預金及ビ貯蓄預金	諸預り金
第五區	株式會社黒石銀行*	560,000	555,000	122,900	52,115	240,914	11,419	110,746
	同階上銀行*	300,000	187,500	101,500	233,579	100,864	175,013	40,701
	同青森商業銀行	296,000	296,000	16,800	107,392	50,780	13,770	20,189
	同五所川原銀行	250,000	250,000	45,200	97,015	44,830	55,551	262
	同津輕銀行	250,000	190,000	91,000	254,240	30,186	81,064	4,821
	同弘前商業銀行	200,000	200,000	64,100	219,034	8,305	103,865	107,036
	同尾上銀行	200,000	170,000	38,000	9,823	12,506	24,915	30,167
	同立誠銀行	150,000	150,000	53,330	90,661	29,276	23,904	0
	同木造兩盛銀行	150,000	141,000	24,700	22,827	4,665	3,110	0
	同藤崎銀行	125,000	106,250	81,552	34,345	19,874	6,268	3,776
	同板柳銀行	100,000	100,000	18,775	22,690	11,459	9,216	108
	合資會社野村銀行	100,000	100,000	120,000	52,308	66,829	0	0
	株式會社集盛貯蓄銀行	100,000	85,000	13,600	70,982	13,909	25,806	0
	同弘前貯蓄銀行	50,000	50,000	9,100	16,471	1,309	30,676	0
	合資會社金木銀行	50,000	50,000	16,200	13,173	9,974	0	6,428
	合名會社泉山銀行	50,000	50,000	129,500	174,794	75,139	0	98,076
	株式會社下北貯蓄銀行	50,000	37,500	19,000	159,822	44,066	56,208	4,618
	合名會社關銀行	35,000	35,000	189,150	106,187	17,640	29,718	0
	株式會社青灣貯蓄銀行	31,500	31,500	6,500	24,802	6,467	49,349	0
	合資會社弘前兩益銀行	30,000	30,000	32,000	114,411	28,663	26,472	0
	合名會社金兵衛銀行	26,000	26,000	101,200	27,914	4,122	203,784	10,495
	株式會社安田銀行青森支店	0	0	0	465,957	110,610	0	305,006
青森縣	合計	3,193,500	2,840,750	1,294,107	2,370,542	932,387	930,099	742,429

銀行營業狀態

(大正三年十二月三十一日現在)

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座預金貸越	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ケ金	金銀有高	利益配當割合
20,000	0	256,730	738,778	88,856	7,450	7,000	16,425	年壹割
0	0	109,909	251,248	283,846	125,423	37,000	46,630	年壹割
79,000	0	49,999	230,538	207,821	39,416	0	21,018	年七分
30,000	0	30,148	450,512	7,277	4,880	11,500	26,627	年壹割貳分
10,000	0	43,686	532,259	60,092	31,424	0	15,566	年壹割壹分
11,000	0	42,471	679,012	0	12,290	0	10,076	年壹割壹分
29,500	0	8,066	197,448	93,323	8,180	0	8,198	年壹割
61,000	0	22,580	377,196	0	8,721	0	4,714	
48,500	0	55,372	126,045	76,179	0	0	1,852	年八分
6,800	0	9,082	93,861	13,944	96,780	13,000	3,347	年壹割貳分
13,000	0	0	133,269	31,765	8,900	5,048	7,142	年壹割壹分
0	0	71,268	205,793	43,649	23,885	4,700	7,454	年六分
28,700	0	36,046	158,283	45,006	0	0	2,815	○
0	0	10,499	44,776	42,203	6,783	1,500	1,826	年八分
0	0	30,106	38,645	43,166	0	0	6,311	年壹割貳分
5,300	0	77,322	276,297	161,770	22,956	0	10,071	年壹割貳分
0	0	20,023	96,548	70,017	35,395	87,622	7,323	年壹割
34,973	0	30,129	165,649	195,979	28,060	0	6,140	○
57,000	0	30,398	39,286	20,254	28,443	0	2,139	年五分
11,000	0	20,146	95,020	109,401	15,640	0	2,506	年壹割壹分
10,000	0	27,631	137,621	3,250	0	8,771	6,949	
0	0	0	24,795	114,599	896,056	0	46,117	
455,773	0	981,611	5,092,879	1,712,397	1,395,682	279,641	264,246	

銀行營業狀態

(大正三年十二月三十一日現在)

借入金	再割引手形	有價證券	貸付金	當座預金貸越	割引手形及ビ荷付爲替手形	預ケ金	金銀有高	利益配當割合
38,200	0	11,224	73,066	70,300	21,205	25	5,111	年八分
0	0	38,117	37,318	0	34,054	14,001	2,835	年五分
0	0	30,547	53,699	283,364	340,460	0	106,879	
0	0	0	14,295	92,264	62,605	0	23,547	
0	0	0	112,043	112,838	272,252	0	38,755	
0	0	0	105,711	19,807	46,290	0	5,913	
0	0	972	14,444	33,441	0	0	13,196	
0	0	0	16,220	63,285	11,100	0	15,149	
38,200	0	80,860	426,796	675,299	787,966	14,026	211,485	
1,416,401	37,300	2,793,536	13,342,607	4,370,579	6,462,230	2,143,234	1,107,122	

奥羽六縣同盟外

(第二表ノ四)

區域	銀行名	資本金	拂込資本金	諸積立金	定期預金	當座預金	小口當座預金及ビ解約預金	諸預リ金
第六區秋田縣	合名會社池田銀行	30,000	30,000	38,800	28,819	7,383	17,813	4,391
	株式會社雄勝貯銀蓄行	30,000	15,000	13,500	0	0	87,175	10,224
	同 安田銀行 秋田支店	0	0	0	691,269	223,310	420,002	72,748
	同 安田銀行 本荘支店	0	0	0	147,928	58,293	130,084	12,514
	同 安田銀行 横手支店	0	0	0	79,592	12,920	171,512	19,663
	同 安田銀行 角館出張所	0	0	0	55,080	23,455	42,821	5,873
	同 安田銀行 花輪出張所	0	0	0	127,951	15,737	65,524	10,441
	同 安田銀行 鷹巣出張所	0	0	0	48,991	26,609	30,027	12,726
	合計	60,000	45,000	52,300	1,179,630	367,707	964,958	148,580
總計		10,243,507	6,161,520	2,548,486	7,695,198	3,564,438	6,929,749	2,523,816

備考

(一)金員ハ圓以上ヲ計算セリ

(二)＊印ハ貯蓄兼營銀行ナリ

(第三表ノ一) 奥羽六縣普通銀行及農工銀行營業年季別比較表 (大正三年十二月三十一日現在)

區域		年季	銀行數	拂込資本金	諸積立金	諸預り金	借入金	諸貸出金	預ケ金	有價證券	金銀有高	利益配當割合
第一區	普通銀行	四十四年上半季	32	2,991,750	1,200,512	11,567,713	912,082	13,337,686	387,331	1,963,893	751,348	
		四十四年下半季	32	2,991,750	1,281,560	14,108,460	1,217,204	16,542,011	150,494	2,458,422	581,936	
		四十五年上半季	33	3,293,750	1,364,194	14,045,540	789,044	16,310,831	248,781	2,272,510	829,369	
		大正元年下半季	34	3,631,250	1,438,354	14,395,436	1,695,689	18,946,130	120,107	2,268,360	716,689	
		大正貳年上半季	34	3,811,250	1,502,033	14,051,660	1,522,255	18,074,646	261,756	2,286,016	867,273	
		大正貳年下半季	36	4,358,750	1,596,718	14,322,642	1,842,985	19,326,873	158,594	2,334,310	783,069	
		大正參年上半季	36	4,563,024	1,676,199	14,644,555	1,301,439	20,057,759	270,383	2,335,204	856,462	
		大正參年下半季	35	4,731,230	1,779,327	14,157,026	1,680,850	19,402,079	273,050	2,273,819	686,663	
	農工銀行	四十四年上半季	1	1,000,000	384,000	367,941	2,510,167	4,178,023	131,006	2,283	1,749	年壹割
		四十四年下半季	1	1,000,000	414,000	259,887	3,060,964	4,343,484	424,121	32,272	4,138	年壹割
		四十五年上半季	1	1,000,000	444,000	311,620	3,171,333	4,811,532	128,898	40,509	3,264	年壹割
		大正元年下半季	1	1,000,000	464,000	337,664	3,532,995	5,067,398	275,055	40,501	385	年壹割
		大正貳年上半季	1	1,000,000	484,000	426,465	4,000,607	5,803,199	110,457	40,491	928	年壹割
		大正貳年下半季	1	1,250,000	474,040	265,330	4,059,670	6,051,852	250,483	39,998	376	年壹割
		大正參年上半季	1	1,250,000	726,345	357,750	4,476,330	6,668,349	117,193	78,379	222	年壹割
		大正參年下半季	1	1,250,000	761,645	421,579	5,009,917	7,236,498	126,764	148,545	1,996	年壹割
第二區	普通銀行	四十四年上半季	10	1,680,000	379,300	9,621,806	394,500	7,403,023	1,496,446	1,754,968	1,037,455	
		四十四年下半季	10	1,730,000	393,600	10,124,006	45,000	8,188,114	1,188,265	1,699,508	773,329	
		四十五年上半季	10	2,180,000	427,900	10,970,343	124,000	8,765,466	1,711,310	2,053,630	1,029,867	
		大正元年下半季	10	2,254,260	490,200	9,992,653	531,800	10,665,716	520,432	1,946,949	732,369	
		大正貳年上半季	10	2,337,500	517,500	10,448,591	599,000	10,572,384	515,428	1,959,105	1,158,770	
		大正貳年下半季	10	2,387,500	534,800	10,352,699	831,471	11,162,468	429,557	1,911,358	725,258	
		大正參年上半季	10	2,387,500	564,800	11,368,589	560,000	11,737,985	418,282	2,057,558	1,017,939	
		大正參年下半季	10	2,387,500	583,700	11,193,283	485,972	11,793,006	383,293	2,092,610	574,619	
	農工銀行	四十四年上半季	1	800,000	221,000	224,952	2,977,536	4,147,650	36,550	47,500	2,324	年九分
		四十四年下半季	1	900,000	242,000	229,414	3,271,241	4,548,291	72,864	49,000	4,150	年九分
		四十五年上半季	1	1,000,000	263,000	201,732	3,787,972	5,042,843	198,330	50,750	5,033	年九分
		大正元年下半季	1	1,000,000	284,000	182,493	3,965,628	5,272,305	161,212	50,150	4,090	年九分
		大正貳年上半季	1	1,000,000	305,000	155,672	4,519,819	5,776,173	202,911	51,240	2,263	年九分
		大正貳年下半季	1	1,000,000	326,000	198,307	4,566,083	6,004,998	95,193	49,762	826	年九分
		大正參年上半季	1	1,000,000	350,000	312,726	4,934,503	6,303,309	276,263	49,497	3,134	年九分
		大正參年下半季	1	1,000,000	374,000	378,388	4,908,046	6,428,744	236,582	47,441	632	年九分

區域		年季	銀行數	拂込資本金	諸積立金	諸預り金	借入金	諸貸出金	預ケ金	有價證券	金銀有高	利益配當割合
第三區	普通銀行	四十四年上半季	30	3,880,500	1,573,318	12,420,932	262,971	11,756,876	1,670,157	2,753,242	1,021,756	
		四十四年下半季	31	4,005,500	1,606,236	12,783,539	1,254,424	14,774,777	1,689,718	2,775,080	705,063	
		四十五年上半季	31	4,015,500	1,647,656	12,991,729	735,627	14,278,406	1,577,428	2,704,652	949,207	
		大正元年下半季	31	4,315,500	1,656,616	13,725,850	1,468,200	17,233,633	1,495,286	2,924,944	972,264	
		大正貳年上半季	31	4,375,500	1,732,296	13,252,139	1,810,743	16,540,437	1,837,756	2,511,239	800,165	
		大正貳年下半季	33	4,500,500	1,731,989	13,721,439	2,384,432	14,184,243	1,669,911	2,493,015	852,502	
		大正參年上半季	32	4,545,500	1,779,969	12,506,065	2,474,203	17,543,215	1,274,613	2,459,827	991,660	
		大正參年下半季	32	4,620,500	1,887,847	14,181,629	1,290,540	17,169,857	1,577,964	2,548,508	920,790	
山形縣	農工銀行	四十四年上半季	1	600,000	136,610	73,682	938,547	1,568,849	177,826	49,894	7,031	年九分
		四十四年下半季	1	600,000	142,349	260,757	1,013,795	1,948,580	57,522	47,247	12,111	年九分
		四十五年上半季	1	800,000	145,910	274,978	1,178,156	2,365,711	20,432	45,930	16,344	年九分
		大正元年下半季	1	1,000,000	151,110	316,646	1,184,377	2,568,331	83,581	43,969	10,089	年九分
		大正貳年上半季	1	1,000,000	158,360	235,559	1,472,334	2,786,506	44,267	43,969	34,509	年九分
		大正貳年下半季	1	1,000,000	174,167	301,949	1,452,877	2,823,858	76,531	42,192	5,307	年九分
		大正參年上半季	1	1,000,000	189,441	252,866	1,945,918	3,230,933	71,070	91,192	10,510	年九分
		大正參年下半季	1	1,000,000	210,435	182,665	2,203,747	3,400,280	75,173	91,192	15,538	年九分
第四區	普通銀行	四十四年上半季	12	2,055,200	638,745	5,760,480	33,457	6,276,870	175,694	1,544,057	557,280	
		四十四年下半季	12	2,055,200	663,265	6,483,143	51,222	7,070,306	135,453	1,603,834	559,299	
		四十五年上半季	12	2,237,700	708,865	6,834,807	47,743	7,295,760	142,787	1,802,394	594,698	
		大正元年下半季	12	2,401,700	746,116	6,960,092	139,150	8,502,889	72,264	1,716,129	463,456	
		大正貳年上半季	13	2,684,750	787,715	6,167,816	242,760	8,537,160	37,334	1,217,879	410,417	
		大正貳年下半季	14	3,005,230	688,508	6,108,581	353,229	8,912,284	21,831	1,212,446	455,468	
		大正參年上半季	14	3,342,380	728,380	6,751,222	208,778	18,416,588	65,859	1,399,415	561,908	
		大正參年下半季	14	3,347,507	749,043	6,543,363	362,396	9,499,359	199,558	1,154,035	441,476	
岩手縣	農工銀行	四十四年上半季	1	600,000	122,282	199,932	1,248,732	2,122,363	56,149	18,342	717	年九分
		四十四年下半季	1	600,000	134,482	194,600	1,527,169	2,413,536	54,214	18,108	698	年九分
		四十五年上半季	1	600,000	149,982	134,918	1,856,378	2,582,710	188,085	19,812	646	年九分
		大正元年下半季	1	600,000	166,982	139,474	2,002,619	2,686,478	222,113	49,997	1,092	年九分
		大正貳年上半季	1	700,000	184,982	136,017	2,158,409	3,050,152	152,538	50,447	1,943	年九分
		大正貳年下半季	1	700,000	239,857	132,976	2,302,088	3,224,424	139,163	51,347	427	年九分
		大正參年上半季	1	700,000	257,157	131,606	2,587,370	3,509,309	148,425	51,084	819	年九分
		大正參年下半季	1	700,000	279,457	156,031	2,870,346	3,779,399	153,602	49,250	2,959	年九分

（第三表ノ二）

奥羽六縣普通銀行及農工銀行營業年季別比較表（大正三年十二月三十一日現在）

區域		年季	銀行數	拂込資本金	諸積立金	諸預リ金	借入金	諸貸出金	預ケ金	有價證券	金銀有高	利益配當割合
第五區	普通銀行	四十四年上半季	30	4,531,050	1,746,025	9,528,020	15,500	10,542,531	1,328,787	1,328,668	671,321	
		四十四年下半季	30	4,535,550	1,771,662	10,050,266	87,935	12,702,439	763,143	2,021,261	708,782	
		四十五年上半季	29	4,905,050	1,675,401	10,467,317	137,022	13,856,207	601,082	2,166,226	749,365	
		大正元年下半季	29	4,944,050	1,774,755	10,814,278	546,793	14,878,419	363,337	2,202,204	770,635	
		大正貳年上半季	29	5,058,750	1,726,692	10,023,810	517,384	14,730,921	251,625	2,134,830	664,019	
		大正貳年下半季	29	5,096,750	1,658,117	9,900,044	979,366	11,330,298	105,574	2,139,996	709,081	
		大正參年上半季	29	5,105,750	2,038,512	10,808,145	1,111,480	15,552,360	594,747	2,344,183	552,719	
		大正參年下半季	29	5,105,750	2,122,407	10,496,451	1,448,773	15,919,088	546,693	2,257,057	692,733	
	農工銀行（青森縣）	四十四年上半季	1	600,000	129,665	121,466	744,047	1,490,997	113,188	22,147	976	年九分
		四十四年下半季	1	600,000	97,400	41,063	932,768	1,642,929	84,433	23,056	940	年九分
		四十五年上半季	1	600,000	154,900	74,925	992,576	1,758,284	67,874	23,056	865	年九分
		大正元年下半季	1	600,000	169,200	203,701	1,140,897	1,985,753	134,522	22,980	823	年九分
		大正貳年上半季	1	700,000	182,500	184,781	1,182,388	2,192,996	155,412	22,961	1,586	年九分强
		大正貳年下半季	1	800,000	296,000	139,879	1,297,750	2,366,247	170,179	22,921	3,388	年八分
		大正參年上半季	1	800,000	308,163	169,028	2,140,926	3,232,635	194,716	22,846	5,216	年八分
		大正參年下半季	1	800,000	320,883	180,343	2,183,888	3,345,495	164,375	21,747	1,759	年九分
第六區	普通銀行	四十四年上半季	21	2,000,000	750,685	10,756,846	114,709	7,635,423	824,225	2,856,747	462,251	
		四十四年下半季	21	2,000,000	785,759	10,267,577	629,751	9,487,644	403,115	2,727,011	639,193	
		四十五年上半季	21	2,000,000	822,741	11,126,720	354,675	9,313,129	615,905	2,717,471	420,837	
		大正元年下半季	21	2,050,000	805,664	11,383,056	556,262	10,926,379	356,881	2,622,663	795,865	
		大正貳年上半季	21	2,145,000	820,330	11,037,341	391,916	9,664,952	505,185	2,538,082	583,666	
		大正貳年下半季	19	2,020,000	757,028	10,181,822	813,167	10,341,667	314,512	2,354,307	817,144	
		大正參年上半季	19	2,095,000	826,520	10,335,963	297,367	9,709,796	719,542	2,155,334	555,977	
		大正參年下半季	19	2,145,000	843,710	10,338,468	866,664	10,793,429	338,351	2,126,024	849,249	
	農工銀行（秋田縣）	四十四年上半季	1	600,000	196,987	306,914	1,246,559	2,129,132	178,677	84,350	4,566	年九分
		四十四年下半季	1	600,000	214,489	364,453	1,344,734	2,399,262	70,861	104,031	1,955	年九分
		四十五年上半季	1	600,000	230,020	349,352	1,584,026	2,570,925	138,016	103,454	3,515	年九分
		大正元年下半季	1	600,000	245,500	377,293	1,687,902	2,671,372	173,181	112,761	2,985	年九分
		大正貳年上半季	1	600,000	210,950	383,575	1,853,538	2,718,958	183,139	112,717	8,728	年九分
		大正貳年下半季	1	600,000	213,297	378,521	1,808,881	2,738,411	147,287	112,371	8,727	年九分
		大正參年上半季	1	600,000	225,934	465,222	1,925,899	2,913,885	193,932	108,239	9,594	年九分
		大正參年下半季	1	600,000	238,673	572,791	1,952,174	2,100,071	152,601	106,164	601	年九分
合計	普通銀行	四十四年上半季	135	17,138,500	6,285,587	59,655,797	1,733,219	56,952,409	5,882,840	12,701,575	4,501,411	
		四十四年下半季	136	17,318,000	6,502,082	63,817,391	3,285,536	68,764,891	4,330,188	13,285,116	3,967,632	
		四十五年上半季	136	18,632,000	6,646,757	66,436,456	2,188,111	69,819,799	4,897,293	13,716,880	4,573,343	
		大正元年下半季	137	19,596,760	6,911,705	67,271,465	4,937,894	81,153,166	2,9[illegible]8,307	13,681,249	4,451,278	
		大正二年上半季	138	20,412,750	7,086,567	64,981,357	5,082,0[illegible]8	78,120,500	3,409,079	12,647,150	4,484,310	
		大正二年下半季	140	21,368,780	7,267,160	64,587,223	7,204,650	83,257,823	2,759,979	12,445,432	4,342,522	
		大正三年上半季	140	22,044,154	7,617,083	66,414,539	5,953,267	93,017,703	3,343,426	12,751,521	4,536,665	
		大正三年下半季	139	22,337,487	7,963,034	66,910,220	6,135,195	84,576,818	3,318,909	12,453,053	4,165,520	
	農工銀行	四十四年上半季	6	4,200,000	1,193,538	1,294,887	6,665,588	15,637,014	696,396	225,521	77,084	
		四十四年下半季	6	4,300,000	1,244,720	1,350,174	11,150,671	17,296,082	764,015	273,714	23,992	
		四十五年上半季	6	4,600,000	1,387,512	1,347,525	12,570,671	19,132,005	741,635	283,511	29,667	
		大正元年下半季	6	4,800,000	1,480,792	1,557,280	13,510,418	20,251,637	1,055,664	320,358	19,464	
		大正二年上半季	6	5,000,000	1,525,792	1,522,069	15,192,095	22,327,984	848,742	321,825	49,957	
		大正二年下半季	6	5,350,000	1,723,376	1,416,962	15,4[illegible]5,349	23,209,790	878,836	318,491	19,051	
		大正三年上半季	6	5,350,000	2,057,040	1,689,198	18,014,944	25,858,420	1,0[illegible]1,599	401,237	29,49[illegible]	
		大正三年下半季	6	5,350,000	2,185,093	1,891,797	19,129,718	27,290,487	909,097	464,339	23,485	
	總計	四十四年上半季	141	21,338,500	7,479,123	60,950,684	11,398,807	72,589,423	6,576,736	12,927,096	4,518,495	
		四十四年下半季	142	21,618,000	7,746,802	65,167,565	14,436,207	86,060,973	5,094,203	13,558,830	3,991,624	
		四十五年上半季	142	23,232,000	8,034,269	67,783,981	14,758,552	88,951,804	5,638,928	14,000,391	4,603,010	
		大正元年下半季	142	24,396,760	8,392,497	68,828,745	18.448,312	101,404,803	3,983,971	14,001,607	4,470,724	
		大正二年上半季	144	25,412,750	8,612,359	66,503,426	20,274,153	100,448,484	4,257,821	12,968,975	4,534,267	
		大正二年下半季	146	26,718,780	8,990,536	66,004,185	22,689,999	106,467,613	3,638.815	12,763,923	4.361,573	
		大正三年上半季	146	27,394,154	9,674,123	68,103,737	23,968,211	118,876,123	4,345,025	13,152,758	4,566,160	
		大正三年下半季	145	27,687,487	10,148,127	68,802,017	25,264,613	111,867,305	4,228,006	12,917,392	4,189,005	

備考

（一）金員ハ圓以上ヲ計算セリ

（二）農工銀行ノ計算ニ於テ保證年賦償還貸付金ヲ諸貸出金ニ加算スルガ故ニ年賦償還貸付金保證額ハ借入金ニ加算シタリ

(第四表ノ一) 奥羽六縣同盟銀行成績比較表 (大正三年十二月三十一日現在)

銀行名	資本金	拂込資本金	積立金	當期 純益金	當期 積立金	當期 配當金	當期 後期繰越金	拂込資本金ニ對スル割合 積立金	拂込資本金ニ對スル割合 當期純益金	當期純益金ニ對スル割合 當期積立金	當期純益金ニ對スル割合 當期配當金	當期純益金ニ對スル割合 後期繰越金
株式會社 第五十九銀行	1,500,000	1,250,000	432,000	112,756	10,000	68,750	29,756	割分厘 345	割分厘 90	割分厘 88	割分厘 609	割厘分 263
同 盛岡銀行	1,500,000	1,020,000	221,000	70,679	8,000	51,000	6,179	216	69	113	721	87
同 兩羽銀行	1,000,000	1,000,000	335,000	107,178	30,000	50,000	18,678	335	107	279	466	174
同 第百七銀行	1,000,000	1,000,000	465,000	92,985	20,000	50,000	21,485	465	92	215	537	231
同 秋田銀行	1,000,000	900,000	246,000	59,231	5,000	40,125	12,106	273	65	84	677	204
同 宮城商業銀行	2,000,000	875,000	227,000	58,382	5,000	39,375	12,207	259	66	84	588	209
同 七十七銀行	750,000	650,000	60,200	24,124	7,000	11,375	5,749	92	37	290	471	238
同 岩手銀行	1,000,000	650,000	100,000	40,704	9,000	28,125	1,279	153	62	221	690	31
同 福島商業銀行	1,000,000	612,500	153,700	21,953	2,500	17,212	1,740	250	35	114	745	79
同 第四十八銀行	1,000,000	525,000	78,000	32,097	5,000	19,000	6,097	148	61	155	591	189
同 弘前銀行	700,000	525,000	98,000	33,668	5,000	26,250	1,118	186	64	136	770	33
同 第八十八銀行	500,000	418,563	17,900	0	0	0	0	42	0	0	0	0
同 第九十銀行	600,000	420,000	164,000	31,604	6,000	21,000	2,229	390	75	183	664	70
同 會津銀行	600,000	375,000	93,200	19,543	2,000	15,000	729	248	52	102	767	37
同 磐城銀行	750,000	375,000	155,000	33,341	7,000	18,750	5,091	413	88	239	562	152
同 東北實業銀行	500,000	300,000	20,000	20,672	5,000	13,000	1,122	66	68	241	628	54
同 平鹿銀行	500,000	275,000	122,000	25,801	5,000	13,750	6,351	443	93	193	532	246
同 山形商業銀行	500,000	275,000	4,000	9,145	1,000	7,040	755	14	33	109	768	82
同 平銀行	500,000	215,000	108,500	31,446	6,000	10,750	12,946	504	146	190	341	411
同 羽前長崎銀行	200,000	200,000	40,000	14,772	1,000	6,000	7,222	200	73	67	406	488
合名會社 三浦銀行	200,000	200,000	200,000	14,146	0	5,000	9,146	1,000	70	0	353	646
株式會社 花巻銀行	200,000	200,000	87,218	18,461	4,000	10,000	3,221	436	92	216	541	174
同 二本松銀行	500,000	175,000	73,100	14,196	3,300	8,750	1,359	417	81	232	616	95
株式會社 天童銀行	200,000	175,000	26,800	12,891	3,200	6,300	2,841	153	73	248	488	220
同 上北銀行	150,000	150,000	62,200	4,851	200	4,500	151	414	32	41	927	31
同 須賀川銀行	250,000	145,000	58,800	16,393	3,500	5,800	6,493	405	113	213	353	396
同 八戸商業銀行	200,000	140,000	107,500	22,687	5,000	7,000	9,817	767	161	220	308	432
同 鶴岡銀行	180,000	135,000	49,400	7,503	1,370	4,824	659	365	57	182	642	87
同 上山銀行	200,000	125,000	23,500	5,051	500	4,000	551	188	35	98	791	109
同 村田銀行	500,000	125,000	35,000	12,302	4,000	5,000	2,528	280	98	325	406	205
同 楢岡銀行	200,000	125,000	60,600	9,717	2,500	5,000	1,217	484	77	257	514	125
同 本宮銀行	200,000	125,000	48,000	12,196	2,500	6,250	3,046	384	97	204	512	249
同 白河商業銀行	150,000	120,000	63,670	10,819	3,000	4,800	2,519	530	90	277	443	232
合資會社 松良銀行	120,000	120.000	86,500	12,188	4,000	4,800	3,388	720	101	328	395	277
株式會社 新庄銀行	150,000	112,500	31,700	5,569	1,000	3,390	979	281	49	179	608	175
同 第百一銀行	220,000	110,000	87,300	11,570	3,350	5,500	2,170	845	105	289	475	187
同 白石商業銀行	100,000	100,000	93,000	9,786	2,250	5,000	1,521	930	97	255	510	155
同 青森銀行	100,000	100,000	23,000	4,940	500	3,500	540	230	49	101	709	109
同 白石銀行	100,000	100,000	18,500	8,515	1,500	4,500	2,115	185	85	176	528	248
同 氣仙銀行	100,000	100,000	68,500	11,771	4,500	5,000	1,213	685	117	381	424	103
合資會社 瀧谷銀行	100,000	100,000	12,000	9,681	3,000	3,000	3,681	120	96	309	309	380
同 正製銀行	100,000	100,000	20,500	6,800	1,000	0	5,008	205	68	147	0	737
合名會社 須釜銀行	100,000	100,000	114,000	21,063	8,000	5,000	7,213	1,145	210	379	237	342
同 太宰銀行	100.000	100,000	70,000	9,576	5,000	2,500	2,076	700	95	522	261	216
同 澤木銀行	100,000	100,000	60,000	6,016	5,000	0	770	600	60	831	0	117
株式會社 福島銀行	100,000	100,000	46,000	8,472	3,000	2,500	2,972	460	84	354	295	350
同 三春銀行	180,000	90,000	35,000	8,792	1,500	3,960	2,682	388	97	170	450	330
同 大石田銀行	150,000	75,000	23,650	8,500	2,000	2,625	3,470	315	113	235	308	408
同 水澤銀行	100,000	75,000	32,600	10,710	1,000	3,750	5,610	434	142	93	350	523

(第四表ノ二) 奥羽六縣同盟銀行成績比較表 (大正三年十二月三十一日現在)

銀行名	資本金	拂込資本金	積立金	當期 純益金	當期 積立金	當期 配當金	當期 後期繰越金	拂込資本金ニ對スル割合 積立金	拂込資本金ニ對スル割合 當期純益金	當期純益金ニ對スル割合 當期積立金	當期純益金ニ對スル割合 當期配當金	當期純益金ニ對スル割合 後期繰越金
株式會社 大曲銀行	75,000	75,000	81,000	8,343	1,500	4,500	1,989	割分厘 1,084	割分厘 111	割厘分 179	割分厘 665	割分厘 238
同 水澤貯蓄銀行	100,000	75,000	28,000	17,903	1,000	3.750	12,623	373	238	55	209	705
同 宮城貯蓄銀行	100,000	70,000	31,000	11,898	4,000	2,100	5,048	442	169	336	182	424
同 相馬銀行	100,000	62.500	24,650	7,729	800	3,125	3,497	394	124	102	401	448
同 田島銀行	100,000	60,000	27,750	3,052	500	2,100	182	462	50	163	753	58
同尾花澤商業銀行	100,000	50,000	9,500	6,036	1,800	2,000	1,881	150	120	298	331	311
同 三戸銀行	50,000	50,000	33,100	8,423	4,250	2,500	1,191	662	168	504	320	141
同 雄勝銀行	50,000	50,000	33,000	4,370	1,000	2,500	405	660	87	228	572	92
同 增田銀行	50,000	50,000	13,000	5,231	1,500	2,000	1,481	260	104	287	382	283
合資會社 東根銀行	50,000	50,000	35,900	14,684	1,000	2,500	10,784	718	293	68	170	734
同 高谷銀行	50,000	50,000	72,500	10,522	3,500	3,000	4,022	1,450	210	332	285	382
同 湯澤銀行	50,000	50.000	51,610	4,660	1,860	2,500	0	1,032	93	403	536	0
合名會社 能代銀行	50,000	50,000	70,500	8,251	4,500	2,500	1,051	1,410	165	545	302	127
同 植田銀行	50,000	50,000	10,800	3,305	1,800	0	1,505	216	66	544	0	455
株式會社 前澤銀行	50,000	49,904	12,200	0	0	0	0	244	0	0	0	0
合名會社 五業銀行	25,000	25,000	25,500	5,462	1,000	3,134	384	1,020	218	183	573	70

備考

(一) 金員ハ圓以上ヲ計算セリ

(二) 割合ノ厘以下ニ四捨五入セリ

大正四年四月二十五日 大正四年七月十八日 再版發行

【定價金九拾錢】

發行所 東京市神田區旭町二十五番地 東北社 振替口座東京貳九九八壹番

發行者 東京市神田區旭町二十五番地 淺野源吾

印刷者 東京市京橋區築地二丁目二十一番地 渡邊素一

印刷所 東京市京橋區築地二丁目二十一番地 國光印刷株式會社

複製不許

277
285

落